

授 業 科 目 名	心 理 学	単 位 認 定 者	大 竹 直 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期 集 中
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人の心の働きや行動をとおして心理学の基礎を学ぶ。目に見えない「心」を、科学的にはどのようにとらえ、どのような方法で探求してきたのか、ということ学ぶことで、より深い人間理解をめざす。また授業では、心理学の理論を、日常生活において経験する行動や問題、「私」という視点からも考えていきたい。
学 習 到 達 目 標	1. 心理学の概要を理解する 2. 心理学理論による人間理解を深める 3. 心理学的援助の概要と方法について理解する 4. 心理学的視点から、日常生活や自分をとらえなおす
関 連 科 目	臨床心理学、発達心理学、カウンセリング、老年心理学
成 績 評 価 方 法	定期試験、レポート課題、出席点の総合評価

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	心理学とは	医療と心理学 心理学から何を学ぶか	【Ⅱ. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進】 2. 臨床心理学 A 基礎理論
2	心理学の歴史	心理学のはじまりと発展 ヴェント、ゲシュタルト、行動主義、精神分析学	a) 歴史, b) 防衛機制と転移 【Ⅱ. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進】 2. 臨床心理学 A 基礎理論
3	感覚と知覚	五感のはたらき、地と図、錯覚、知覚の恒常性	c) 学習・記憶・行動
4	欲求と動機づけ	動機・欲求の種類、欲求不満と葛藤	【Ⅰ. 人体の構造と機能及び心身の発達】 4. 人間発達学 A 総論
5	記憶	記憶のしくみ、忘却、日常記憶、高齢者の記憶	a) 定義、目的, b) 発達理論, c) 発達段階と発達課題 d) 身体発達, e) 精神発達, f) 心理社会的発達
6	学習	古典的学習、オペラント学習、観察学習	B 各期における発達 a) 小児期, b) 青年期, c) 老人期, d) 老年期
7	発達と成長	ピアジェの発達理論、エリクソンの発達理論	【Ⅱ. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進】 2. 臨床心理学
8	パーソナリティ 1	パーソナリティの類型論と特性論	A 正常および異常心理
9	パーソナリティ 2	心理検査、知能検査	a) 児童・青年期心理, b) 成人・高齢者の心理, c) 障害者心理
10	無意識と深層心理	精神の構造、精神分析モデル	
11	人間関係の心理	対人認知、原因帰属、ハロー効果、ピグマリオン効果	
12	カウンセリングと心理療法 1	カウンセリングの理論と方法	
13	カウンセリングと心理療法 2	援助のプロセス	
14	カウンセリングと心理療法 3	医療現場における心理学的介入	
15	定期試験	筆記試験	

教 科 書	プリント配布
参 考 書	「看護学生のための 心理学」長田久雄編 (医学書院) 「心理学 改訂版」詫磨武俊編 (新曜社)

授 業 科 目 名	老 年 心 理 学	単 位 認 定 者	三 國 牧 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	高齢者の心理特徴の基本的知識を習得する事を目的とする。
学 習 到 達 目 標	① 老化の概念を習得する。 ② 生涯発達の観点から老年期の身体、感覚機能、記憶、注意と知覚、知能、人格について学習し、精神的疾患に関する老年精神医学的知識と死の問題について、高齢者の伽感的理解に役立つ心理査定方と心理療法について考える。 ③ 高齢者の生き甲斐感や高齢者を取り囲む家族対人関係についての理解を深める。
関 連 科 目	心理学 発達心理学 老年医学
成 績 評 価 方 法	定期試験に平常点を加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	高齢化社会	高齢化社会の意味と私たちのライフサイクルについて考える	I 人体の構造と機能及び心身の発達 4. 人間発達学 B. 各期における発達 d. 老年期 II 疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進 2. 臨床心理学 B. 正常および異常心理 b. 成人・高齢者心理
2	老化について	老化とは何かについて考える	
3	高齢者の記憶	記憶の種類と高齢者の特徴	
4	高齢者の知覚と注意	知覚と加齢との関係	
5	知能と加齢	知能の発達と加齢との関係。老年期の知能の特色	
6	人格と加齢	老年期の人格的特徴	
7	老年期の適応	人格特徴と適応の関係、ストレスフル・ライフイベントと適応の関係	
8	老年期の精神的老化と精神障害	器質性精神障害、機能的な精神障害など	
9	死と死にゆく過程	自らの死をどのように捉えるか、また身近な人の死をどのように受け止めるか	
10	知能・記憶機能の測定	高齢者を対象とした知能検査、痴呆性老人のスクリーニングテスト、行動評価スケールなどについて	
11	人格機能の測定と心理療法	投影法や質問紙などの心理測定と高齢者を対象にした心理療法について	
12	高齢者の主観的幸福感と社会参加	主観的幸福感とその意味	
13	老年期の家族・対人関係と社会生活	高齢者とその家族、また高齢者を取り囲む社会的状況について考える	
14	老後の社会制度と老人福祉サービス	老後保障についてと福祉サービスの内容	
15	定期試験	筆記	

教 科 書	「現代心理学シリーズ 14 老年心理学」 下仲 順子編 (培風館)
参 考 書	「男の本音・女の真実 老年期の心」 氏原寛+山中康裕 (ミネルヴァ書房) 「高齢者の心理が分かるQ&A」 井上勝也監修 (中央法規)

授 業 科 目 名	教 育 学	単 位 認 定 者	横 井 利 男
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	看護や医療は、ある面では教育的でなければならない。そういった意味で本学学生は皆、教育する立場になるという意識が必要である。 人格を形成し、環境に適応し、環境を改善して自分や他者がよりよく生活できるようにするための学習という活動と、それに対する価値志向的働きかけである教育についての基本的事項を習得することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	教育の本質（概念・思想・理論）を理解し、教育の目的等に沿って広い視野から多面的に考え、学習者の実態に即して望ましい教育のあり方を考えることができる。 青少年の問題行動について関心を持ち、親として、またはその青少年に身近な成人としてどのように対処するか短期的、または長期的に解決する方策を考えることができる。
関 連 科 目	生活学 家族学 地域社会学 心理学 発達心理学 臨床心理学 カウンセリング
成 績 評 価 方 法	定期試験 受講時の感想文や意見文の提出など平常時の取り組みの態度をも加味する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	教育	青少年の問題行動 原因：個の資質・家庭・学校・社会・法律	
2	教と育	教育哲学・教育思想 「しつける」「教える」「育てる」	
3	学と習 (動機付け)	学ぶことの面白さ、 「覚える」と「分かる」	
4		動機づけ (外的・内的)	
5	学校教育	オオカミに育てられたアマラとカマラ	
6	学校教育の効果 教育内容	事例研究 1 量の教育から質の教育へ 知識から学び方へ 教育課程	
7	教育制度	現行の教育制度 教育制度の変遷	
8	ゆれる教育改革	「生きる力」と「問題解決の能力」 総合的な学習の時間	
9	人権の教育	「総合的な学習の時間」「人権の教育」	
10	心の教育 道徳教育	宗教的心情の教育 道徳教育と宗教教育	
11	教育関係法制度	教育勅語～教育基本法 教育関係法規 行政機関との関係	
12	発達と教育	教育の形態と学習者としてのヒトの「発達」 胎児期・乳児期・児童期・青年前	
13	学校不適応	学校不適応・いじめ・引きこもり 事例研究 2	
14	特別支援教育	ノーマライゼーション	
15	定期試験		

教 科 書	プリントによる
参 考 書	授業時に紹介

授 業 科 目 名	生 命 科 学	単 位 認 定 者	澤 田 只 夫
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	パワーポイント/ビデオ、適時配布するプリント資料
科 目 の 目 的	ヒトを含む生物の生命現象を、人間が多様な生物と釣り合いながら、共生していくために広い視野に立ち、科学的、論理的思考力を育て、自由で主体的な判断と行動ができるように、また、生命倫理や人の尊厳を幅広く理解していくことができるように、科学的思考の基盤や人間生活へのかかわりを学ぶ。そして、これから学んでいく多くの看護学・理学療法学専門科目の基盤となるよう、医療の対象である「人間」をより深く理解することをねらいとする。最新の情報を交えながら、生命に対する感動を共有したい。
学 習 到 達 目 標	人間も生物の1種であり、その生命維持のしくみを他の生物と比較しながら、「人間」とその環境とのかかわりを深く理解し、他の生物とどれくらい共通点があり、どんな関わりをもって暮らしているのかを理解できるようになることである。
関 連 科 目	解剖学 生理学 生化学 栄養学
成 績 評 価 方 法	中間・学期末試験（70%）、小テスト及びレポート（30%）などにより評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	生命の起源	生命誕生の準備（化学進化） 原始生命の誕生 生命を支える分子	
2	生命の単位	細胞の構造と機能	
3		生体の構造と機能	
4			
5	生命現象とエネルギー	酵素 共通のエネルギー源 光合成 呼吸	
6	細胞の増殖	細胞周期 ヒトの配偶子形成	
7	生命をつなぐ遺伝情報	メンデルの法則	
8		遺伝子の本体 DNAの働き ヒトの遺伝 遺伝と環境	
9		* <u>Midterm Exam</u> *	
10	発生・分化	受精	
11		発生過程	
12	ヒトの初期発生	受精卵から個体へ	
13		性の分化とホルモン	
14	ヒトへの進化	進化とその要因 進化の事実と証拠 ヒトの進化	
15	生物と地球環境	ヒトと地球環境 環境汚染化学物質—環境保全 * <u>Final Exam</u> *	

教 科 書	「人の生命科学」渡辺 強三、佐々木 史江、堀口 毅著（医歯薬出版株式会社）
参 考 書	「生命の意味」桑村哲生 著（裳華房）

授 業 科 目 名	生 命 倫 理	単 位 認 定 者	村 上 隆 夫
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	現代医療における倫理的な諸問題の概要を把握し、実践の場面での適切な行為を可能にする指針を得るとともに、さらにこれらの倫理的な諸問題の背景となっている哲学的・宗教的なことならについての基礎的な理解を得るようにすることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1、現代医療における倫理的な諸問題の概要を把握する。 2、実践の場面で倫理的な諸問題に関して適切に行う指針を獲得する。 3、西欧の医学・医療における哲学的・宗教的な背景について概観を持つ。
関 連 科 目	生命科学 医療民俗学 法学
成 績 評 価 方 法	定期試験に出席率等の平常点を加算する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	生命倫理導入	生命倫理学の形成の歴史的背景	
	生命と身体 (1)	伝統的宗教における生命と身体	
2	生命と身体 (2)	古代哲学における生命と身体	
3	生命と身体 (3)	近代哲学における生命と身体	
4	死の問題 (1)	伝統的な社会における死	
5	死の問題 (2)	近代社会における死	
6	人間の身体	疎外される身体と加工される身体	
7	身体と所有	近代的所有権と身体	
8	人権と医療 (1)	脳死と臓器移植	
9	人権と医療 (2)	インフォームドコンセント	
10	誕生と倫理	妊娠中絶と新生児殺し	
11	死と倫理	終末期医療と安楽死・尊厳死	
12	生殖と倫理	生殖技術と倫理	
13	医療関係倫理	医療関係者－患者間の倫理	
14	医療と正義	医療資源の配分の倫理	
15	動物の生存権	生命倫理と環境倫理	

教 科 書	プリントによる。
参 考 書	講義の展開のなかで適宜指示する。

授業科目名	スポーツ科学	単位認定者	近藤 照彦
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	テキスト中心に解説する。講義内容の理解を深めるため、関連するビデオにて学習する。講義内容に関連する最近の話題についてプレゼンテーションする。
科目の目的	看護師および理学療法士の資格を目指す学生に対して、リハビリテーションとスポーツ、スポーツ科学、運動生理学領域からスポーツにおける生体の生理的変化、スポーツが身体におよぼす効果および健康づくりを実践するための理論について学習する。
学習到達目標	運動におけるリハビリテーション、運動における生体の生理的変化（筋神経系、呼吸循環系、肥満関連）などがおおむね理解できる。 運動における生体の生理的変化（筋神経系、呼吸循環系、肥満関連）などのキーポイントがおおむね理解できる。 教材学習によりテキストで理解した内容を充実させる。
関連科目	運動生理学 生理学 解剖学
成績評価方法	定期試験・出席点の総合評価とする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	ガイダンス	講義概要・成績評価等説明	運動における生体の生理的変化
2	講義	リハビリテーションとスポーツ	
3	講義	スポーツ時における筋収縮とエネルギー供給系	
4	講義	スポーツ時における神経系の役割・動員について	
5	講義	筋の収縮様式と筋力	
6	講義	スポーツと循環	
7	講義	スポーツと呼吸	
8	講義	身体組成と肥満の判定	
9	講義	メタボリックシンドローム	
10	講義	肥満とスポーツ	
11	講義	スポーツと体温調節	
12	講義	各種スポーツ時における筋疲労の要因	
13	講義	老化に伴う身体機能の変化	
14	講義	スポーツと栄養	
15	試験	試験	

教科書	「入門運動生理学」勝田茂（杏林書院）
参考書	講義時に案内

授業科目名	スポーツ科学実習	単位認定者	近藤 照彦
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	選択

指導方法	スポーツ（実技）を行う。コンディショニングでは、各自の体力の現状を把握し、体力の調整を行う。選択スポーツでは、体育館（屋内）ならびにグラウンド（屋外）、テニスコートにて各自選択したスポーツを行う。車いすスポーツでは、車いすの操作およびスポーツを実習しながら障害者の身体機能の理解を深める。運動処方では、障害者および高齢者などに対応すべき運動処方を立案し、指導できるよう実習する。スポーツのできる服装、スポーツにふさわしいスタイル（トレーニングウェア、屋外用シューズ、屋外用シューズ）で出席すること。私服は認めない。
科目の目的	生涯スポーツを通じた生活の質の向上、心身の健康づくりのためのスポーツの実践の動機づけを養う。スポーツの実践からクラブ活動やスポーツ大会参加などの社会参加を養う。
学習到達目標	生涯スポーツを通じた生活の質の向上、心身の健康づくりのため、いろいろなスタイルのスポーツを実践する。クラブ活動やスポーツ大会の参加へ発展できる。
関連科目	スポーツ科学・運動生理学
成績評価方法	出席、態度、意欲、レポートの総合評価（運動能力の優劣での絶対評価は行わない）。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
		今年度開講せず	

教科書	
参考書	「入門運動生理学」勝田茂（杏林書院）

授 業 科 目 名	総 合 英 語	単 位 認 定 者	柴 山 森 二 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	専門分野に配慮しながら主に次の2点を行う：1) 主/副教材で4技能（読む、聞く、話す、書く）を総合的に指導する。2) 必要に応じてプリント教材を使用する。
科 目 の 目 的	将来専門分野で英語を使って仕事ができるように、その基礎となる実用的な英語の力をつける。
学 習 到 達 目 標	主/副教材で扱う英語のレベルで次の3点を主目標とする：1) 英文を読んだり英語を聞いたりできる、2) 英語を話したり英文を書いたりできる、3) 専門分野の基礎的な語彙や語法に習熟する。
関 連 科 目	理学療法学科の専門基礎および専門の各科目
成 績 評 価 方 法	出席状況、授業への参加度、平常試験、期末試験（前期、後期）

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	Orientation	前期授業の説明	
2	Unit 1 Text	“Stress and Anxiety”を読む。	
3	Unit 1 Exercise	Video と CD を使って総合的な Practice をする。	
4	Unit 2 Text	“Vitamins and Supplements”を読む。	
5	Unit 2 Exercise	Video と CD を使って総合的な Practice をする。	
6	Unit 3 Text	“Alzheimer’s”を読む。	
7	Unit 3 Exercise	Video と CD を使って総合的な Practice をする。	
8	Review	Unit 1～3 の復習と中間テスト	
9	Unit 4 Text	“Music Therapy”を読む。	
10	Unit 4 Exercise	Video と CD を使って総合的な Practice をする。	
11	Unit 5 Text	“Laughter as Medicine”を読む。	
12	Unit 5 Exercise	Video と CD を使って総合的な Practice をする。	
13	Unit 6 Text	“Robotic Surgery”を読む。	
14	Unit 6 Exercise	Video と CD を使って総合的な Practice をする。	
15	Examination	前期期末試験	
16	Orientation	後期授業の説明	
17	Unit 7 Text	“Safe Anesthetics”を読む。	
18	Unit 7 Exercise	Video と CD を使って総合的な Practice をする。	
19	Unit 8 Text	“Physical Therapy”を読む。	
20	Unit 8 Exercise	Video と CD を使って総合的な Practice をする。	
21	Unit 9 Text	“Cosmetic Surgery”を読む。	
22	Unit 9 Exercise	Video と CD を使って総合的な Practice をする。	
23	Review	Unit 7～9 の復習と中間テスト	
24	Unit 10 Text	“Vaccine Availability”を読む。	
25	Unit 10 Exercise	Video と CD を使って総合的な Practice をする。	
26	Unit 11 Text	“Safe Blood and AIDS Orevention”を読む。	
27	Unit 11 Exercise	Video と CD を使って総合的な Practice をする。	
28	Unit 12 Text	“The Visible Human Project”を読む。	
29	Unit 12 Exercise	Video と CD を使って総合的な Practice をする。	
30	Examination	後期期末試験	

教 科 書	前・後期共通：（主教材）「ビデオレポート：健康と医療」John S Lander 著（朝日出版社） （副教材）「医学英語の基本用語と表現」藤枝宏壽他著（メディカルビュー社） 注：履修者は主・副教材の両方を購入すること。
参 考 書	英和辞書、医学英語辞書

授業科目名	英語表現	単位認定者	杉田雅子
対象学年	第1学年	学期	通年
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	選択

指導方法	テキストに沿って、ロールプレイなどへの履修者の参加と共に進める。
科目の目的	様々な医療の現場での基礎的な英語表現を身につける。
学習到達目標	医療現場で必須の英語の語彙、表現の習得。 覚えた語彙、表現がスムーズに言えること。
関連科目	【関連する教養科目】—総合英語 英語基礎
成績評価方法	出席状況、授業への取り組み姿勢、小テスト、期末試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	Introduction	授業の説明	
2	Unit 1	急に話しかけられたときの対応	
3	Unit 2	自己紹介のときの基本的質問と答え方	
4	Unit 3	丁寧な質問の仕方	
5	Unit 4	初診の患者さんへの対応	
6	Unit 5	道順と尋ね方と答え方	
7	Unit 6	症状の尋ね方①	
8	Review		
9	Unit 7	症状の尋ね方②	
10	Unit 8	症状の尋ね方③	
11	Unit 9	薬の服用に関する表現	
12	Unit 10	予約の取り方の表現	
13	Unit 11	手術に関する表現	
14	Unit 12	入院患者への質問	
15	前期末試験		
16	プリント1、2	電話予約、受診手続き	
17	プリント3、4	診察の順番待ち、再診	
18	Review		
19	プリント5、6	入院の指示、手続き	
20	プリント7、8	患者さんに質問、お風呂の許可	
21	Review		
22	プリント9、10	薬の指示、検査の指示	
23	プリント11、12	内科、外科	
24	Review		
25	プリント13、14	小児科、歯科	
26	プリント15、16	眼科、耳鼻咽喉科	
27	Review		
28	プリント17、18	産婦人科、整形外科	
29	プリント19、20	皮膚科、泌尿器科	
30	後期末試験		

教科書	「クリスティーンのやさしい看護英会話」知念クリスティーン(医学書院)2003年 「アタマとオシリでわかる医療英単語」飯田恭子(医学書院)2005年
参考書	英和辞典(必携)

授 業 科 目 名	医 療 英 語 ・ 外 書 講 読	単 位 認 定 者	柴 山 森 二 郎
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	Web Page (e.g. New York Times 社の about.com) や Journal (e.g. Journal of APTA) から Physical Therapy に関する比較的読みやすい記事を選んで読む。プリント教材を使用する。
科 目 の 目 的	Physical Therapy に関する英語の文献を読むための基礎的な力をつける。
学 習 到 達 目 標	一般社会人向けの啓蒙的なやさしい文章から入って少し専門的な文章までを読めるようにする。
関 連 科 目	理学療法学科の専門基礎および専門の各科目
成 績 評 価 方 法	出席状況、授業への参加度、平常試験、期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	Introduction	授業の説明とプリントの配布	
2	Reading 1	“Patients and Physical Therapy (about.com)”を読んで、重要な構文や語法を学ぶ。	
3	Reading 2	Types of Physical Therapy (about.com)”を読んで、重要な構文や語法を学ぶ。	
4	Reading 3	Orthopedic PT に関する記事 (1) を読んで、重要な構文や語法を学ぶ。	
5	Reading 4	Orthopedic PT に関する記事 (2) を読んで、重要な構文や語法を学ぶ。	
6	Reading 5	Orthopedic PT に関する記事 (3) を読んで、重要な構文や語法を学ぶ。	
7	Reading 6	Geriatric PT に関する記事 (1) を読んで、重要な構文や語法を学ぶ。	
8	Review	Reading 1~6 の復習	
9	Reading 7	Geriatric PT に関する記事 (3) を読んで、重要な構文や語法を学ぶ。	
10	Reading 8	Neurological PT に関する記事 (1) を読んで、重要な構文や語法を学ぶ。	
11	Reading 9	Neurological PT に関する記事 (2) を読んで、重要な構文や語法を学ぶ。	
12	Reading 10	Neurological PT に関する記事 (3) を読んで、重要な構文や語法を学ぶ。	
13	Reading 11	Pediatric PT に関する記事 (1) を読んで、重要な構文や語法を学ぶ。	
14	Reading 12	Pediatric PT に関する記事 (2) を読んで、重要な構文や語法を学ぶ。	
15	Examination	期末試験	

教 科 書	プリント教材を配布する。
参 考 書	「英和辞書」、「医学英語辞書」

授業科目名	国際医療協力英語	単位認定者	杉田雅子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位（15コマ）	必修・選択	選択

指導方法	基本的にテキストに沿って進めるが、適宜プリント、ビデオなども用いる。
科目の目的	異文化への理解、臨床場面における英語のコミュニケーション能力の向上
学習到達目標	1年次から学んだ医療現場における英語表現の定着。 世界の様々な国の Health に関する実情を知り理解する。 リスニング力向上。
関連科目	【関連する教養科目】—医療英語・外書講読 【関連する専門基礎科目】—国際医療協力
成績評価方法	出席状況、授業への取り組み姿勢、小テスト、期末試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	Introduction	授業の説明	
2	Unit 1	困った時の英語/診療科名/患者の基本情報	
3	Unit 2	診療手続き/症状	
4	Extra 1	海外へ出かけるときの英語	
5	Extra 2	海外へ出かけるときの英語	
6	Unit 4	病歴の聴取/病名	
7	Unit 5	検査	
8	Extra 3 (Reading)	リハビリテーション	
9	Unit 7	予防接種	
10	Unit 8	手術	
11	Unit 9	術後/日常看護	
12	Unit 10	心のケア/文化や宗教の違い	
13	Extra 4 (Reading)	出生前診断、中絶	
14	Extra 5 (Reading)	出生前診断、中絶	
15	後期末試験		

教科書	「クリスティーンのレベルアップ看護英会話」知念クリスティーン（医学書院）2003年 「ネイティブ感覚でわかる医療動詞」飯田恭子（医学書院）2005年
参考書	「英和辞典」（必携） 「英英辞典」

授 業 科 目 名	中 国 語	単 位 認 定 者	王 麗 華
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義、グループでの会話練習等。
科 目 の 目 的	「読む・書く・聞く・話す」の四能力のうち、特に「聞く・話す」に重点を置きながら、日常会話ができる語学力を習得させる。また、中国語学習を通じて、中国の地理・文化・歴史・社会・生活・習慣などを理解する。視野を広め、異文化への理解をより一層深めさせ、国際化する現代の社会に適応する人としてのあり方を考えさせる。
学 習 到 達 目 標	中国語学習上に必要不可欠の発音を重視し、敬遠されがちな発音をいかに楽しく身につけるかを工夫する。身近かに感じさせる用例を使って、文法を組み入れます。 週間授業のタイトルに文法表現は多く表示していますが、特に重視して授業するのではなく、楽しい会話のなかに文法形態を学生に理解させ、中国語の身近さと簡易さを感じさせます。楽しい中国語の基礎づくりを目標とします。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	学期末に筆記と会話のテストを行う。出席数に受講時の学力とテスト成績を参考の上、成績を評価する。期末テスト不参加の場合評価しない。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	発音の基礎 (1)	1. ガイダンス、発音 (四声、音節)	
2	発音の基本 (2)	2. 発音 (単母音、複母音)	
3	発音の基本 (3)	3. 発音 (子音)	
4	発音の基本 (4)	4. 発音 (軽声、変調規則、r 化音)	
5	会話の基本「あいさつ」	5. 発音練習、簡単な日常会話、あいさつ、自己紹介。	
6	簡単なあいさつ	6. 発音練習 数字を数える、数の単位、日付の言い方。	
7	会話から日常用語、中国語への興味を注ぐ	7. 発音練習 曜日、時間の言い方、お金に関する表現。	
8		8. 中間試験	
9	表現文型 (1)	9. 「是」の文など	
10	表現文型 (2)	10. 動詞の文「食べる」/所有を表す「有」の用法	
11	表現文型 (3)	11. 「いつ？」疑問詞疑問文を使う	
12	表現文型 (4)	12. 「寒い～」形容詞の文	
13	応用編 (1)	13. 体の部位を言える。	
14	応用編 (2)	14. 「ご家族は何人ですか？」等。	
15		15. 期末試験	

教 科 書	「話してみたい中国語」高橋絵里子著 (ナツメ社)
参 考 書	

授業科目名	ハングル	単位認定者	金子福子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	2単位（15コマ）	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	韓国語の基礎を学ぶとともに、韓国の社会や文化への理解を深める。
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。 ・正確な発音をマスターする。 ・あいさつをはじめ、身近で簡単な日常会話を身につける。
関連科目	国際関係論
成績評価方法	出席重視、課題、定期試験により総合的に評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	韓国語に関する基礎知識と基本母音	<p>韓国語は言語構造が日本語と非常によく似ていることから学びやすい言語といえる。しかし、表記された文字と実際の発音が異なることも多いため、正確な発音を習得するまでには少々時間を要する。そこで、発音の練習を徹底的に行いながら基本文法や語彙、会話を体系的に学んでいく。</p> <p>前半は読む力・書く力を養うとともに、身近で簡単な日常会話を身につけていく。後半には映画を鑑賞することを通し、聞く力を養っていく。おりにふれて、韓国の社会や文化についてビデオを通して学ぶ。</p> <p><文字と発音></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハングルとは？ ・ハングル文字の仕組み ・基本母音字：発音練習 ・基本子音字：発音練習 ・濃音：発音練習 ・複合母音字：発音練習 ・終声：発音練習 ・ハングルの誕生と発展 ・韓国の伝統料理 ・韓国の観光名所 ・韓国のキムチ 	
2	基本子音		
3	濃音		
4	複合母音		
5	終声（パッチム）		
6	韓国の文化紹介		
7	自己紹介をする	<文法と会話>	
8	出身地を聞く	指定詞：「～は～です」の表現	
9	場所を聞く	疑問形：「～は～ですか」の表現	
10	時間の有無を聞く	否定形：「～ではありません」の表現	
11	趣味を聞く	存在詞：「あります/ありません」の表現	
12	職業を聞く	丁寧形①：「します/しますか」の表現（ハムニダ体）	
13	予定を聞く	丁寧形②：「します/しますか」の表現（へヨ体）	
14	ヒアリング	用言の活用語尾の付け方	
15	定期試験	韓国映画を通して聞き取り練習 筆記試験	

教科書	「基礎から学ぶ韓国語講座」 木内明（国書刊行会）
参考書	「基礎から学ぶ韓国語講座 CD」 木内明（国書刊行会）

授 業 科 目 名	ス ペ イ ン 語	単 位 認 定 者	浅 香 武 和
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義および演習
科 目 の 目 的	スペイン語の基本的文法事項を学び、さまざまな表現形式を理解することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	会話形式の構成によるテキストを使用しながら、スペイン語の表現を理解して簡単なスペイン語会話ができることを目標とする。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	出席重視・定期試験から評価する。受講者は予習して授業に臨むこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	スペイン語の発音	スペイン語のアルファベット 27 と発音	
2	綴りと発音	ch, ll, rr など	
3	母音と子音	強母音と弱母音、二重子音、母音の分立	
4	音節の分け方	4つの分け方	
5	アクセントの位置	母音または子音 n, s で終わる語、n, s 以外で終わる語	
6	文法・主語と動詞	会話・私はサラマンカにいきます。私は日本の出身です。	
7	冠詞と名詞	会話・名前と名字	
	国名と形容詞	会話・駅にて	
8	平叙文と疑問文	会話・タクシーに乗る	
	主語の省略	表現・…したい、望む。場所の表現	
9	文のイントネーション	丁寧な表現、時間をたずねる表現、挨拶の表現	
10	直説法現在形の活用	動詞-ar, -er, -ir の活用	
11	存在動詞について	特定の存在と不特定の存在	
12	指示代名詞	これ、それ、あれ 男性形と女性形の単数と複数	
13	数詞と命令	値段をたずねる表現、数量をたずねる表現	
14	所有形容詞	前置形と後置形	
15	定期試験	筆記試験	

教 科 書	「これがスペイン語だ」浅香武和（大学書林） 「プログレッシブスペイン語辞典」（小学館）
参 考 書	「基本スペイン語文法」江藤一郎（芸林書房）

授 業 科 目 名	音 楽 学	単 位 認 定 者	峰 岸 小 織
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	音楽療法の普及などにより、音楽の治療効果は科学的にも証明されつつあるが、音楽は病気の治療のみならず、健康な人の精神にも大きな影響を与える。この講義では、音楽作品を歴史的背景、作曲家のエピソード等、多くの観点から学び、作品を深く理解し、身近に親しむための関心を引き出していく。それにより、生涯にわたり豊かな感受性、知性、教養を磨き、社会に貢献してゆきたいという熱意を導く。
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽は得意・不得意ではなく、いつも人と共にあり、心の表現手段の一つであり、又、人と人とのコミュニケーションの道具にもなることを認識する。 ・ 音楽に感動する喜びを体験する。 ・ 現代人の生活に氾濫している種々雑多な音に注意を向け、健全な音楽観を持ち、職場や家庭において進んでその音楽環境を整え得る感覚を持つ。
関 連 科 目	教養科目－心理学 老年心理学 教育学 生活学 家族学 地域社会学 国際関係論 専門基礎科目－発達心理学 精神医学 老年医学 カウンセリング レクリエーション論 専門科目－理学療法概論 健康増進・スポーツコンディショニング論 日常生活活動学 生活環境学
成 績 評 価 方 法	レポート、授業後の提出物（感想文）、授業に取り組む姿勢等を総合して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	音楽の起源	原始社会の中で音楽はどのように生まれたのか。	
2	音楽の発達	文明の発達と共に音楽はどのように発達していったか。楽譜（記譜法）の発達 等	
3	音楽の基礎知識	音楽を構成する三要素（リズム、メロディ、ハーモニー） 様々な楽譜の読み方 等	
4	音楽療法とは何か		
5	音楽療法の実際 1	現代社会における音楽療法	
6	音楽療法の実際 2	心の病気と音楽療法 高齢者と音楽療法	
7	音楽療法の実際 3	子供と音楽療法	
8	音楽療法の実際 4	健康な生活と音楽、現代人を取り巻く音楽環境 医療施設での音楽環境	
9	イタリアの音楽	バロック音楽からオペラまで、音楽療法で使われる音楽を中心に学ぶ。	
10	オーストリアの音楽	モーツアルト、シューベルト他オーストリアの作曲家達の音楽	
11	ドイツの音楽	バッハ、そしてベートーヴェンの人と音楽	
12	フランスの音楽	近代フランス音楽の響き	
13	ロシアの音楽	ロシア民謡、バレエ音楽	
14	日本の音楽、アジアの音楽	日本の伝統音楽、民謡、愛唱歌などを通して、又、他の国々との比較において、自分の国の文化を再認識する。	
15	その他の国々の音楽	アメリカ、スペイン、ハンガリー、ブルガリア、チェコ、ポーランド、イギリス等の音楽	

教 科 書	特に使用しません。
参 考 書	講義の中で必要に応じて推薦します。

授業科目名	日本の近代文学	単位認定者	杉本優
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位（15コマ）	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	近代（明治以降）の小説、詩歌などから対象を選び、1回ないし2回程度で完結する進度でいろいろな作品を読んでいく。文学のさまざまな表現様態にふれると同時に、読む過程での問題意識の多様な展開をねらう。
学習到達目標	1. 時代、ジャンル、あるいは流派の違いによる読みのコードの相違を感知する。 2. 方法的な読みの意識化、深化をめざす。 3. 文学表現がはらむ人間探究の豊かな知を習得する。
関連科目	関連すると思われる教養科目：心理学 教育学 生命倫理 性別の社会科学 環境論
成績評価方法	筆記試験に平常点を加味して評価する。授業中に小テストを課す場合もある。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	訳詩の方法・訳詩の魅力	コクトーの2行詩をめぐる3つの訳詩を比較検討する。	
2	まど・みちお「ぞうさん」	阪田寛夫の「遠近法」を手がかりに、まどの詩表現を考える。	
3	啄木の短歌	晩年の啄木の評論や短歌作品を通して、その短歌観を理解する。	
4	啄木の短歌	（承前）	
5	堀辰雄と中野重治	堀辰雄の「幼年時代」によって、彼と中野の幼年時代の意味を考える。	
6	丸山薫の世界	『物象詩集』までの彼の詩の世界を概観する。	
7	丸山薫の世界	（承前）	
8	X	題材未定（あるいは進度調整）	
9	朔太郎の散文詩	萩原朔太郎の散文詩から彼の思想・人生観にふれる。	
10	清岡卓行「希望」	小説「朝の悲しみ」の一節から詩「希望」の重層的な意味をとらえる。	
11	清岡卓行「希望」	（承前）	
12	詩集『音楽』を読む	詩のアラベスク、アブストラクト、アヴァンギャルド。	
13	詩集『音楽』を読む		
14	X	（承前）	
15	まとめ試験	題材未定（あるいは進度調整）	

教科書	テキストは配布プリントを原則とする。
参考書	

授 業 科 目 名	生 活 学	単 位 認 定 者	内 藤 和 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義と演習
科 目 の 目 的	人は社会生活と私生活の両方の世界を生活している。社会生活の領域のありようは私生活のありようにより大きな影響を及ぼしている。この科目では、社会生活の領域との関係を念頭におきつつ私生活の領域に軸足を置き、本当に豊かな生活とは何かを考える
学 習 到 達 目 標	1. 私生活のありかたを社会生活のありかたと関連づけ、総合的にとらえられるようになる 2. 生活の質 (QOL) について十分な認識・知識を獲得する 3. 自身の将来の生活について具体的に考えられるようになる
関 連 科 目	【関連し合う教養科目】－家族学 性別の社会科学 地域社会学 【この科目が基盤となる専門基礎科目】－看護学入門 社会福祉・地域サービス論 【この科目が基盤となる専門科目】－地域理学療法学 生活環境学
成 績 評 価 方 法	定期試験に平常点を加味して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	生活と QOL (1)	生活 QOL－生命の質、生活の質、人生の質	
2	生活と QOL (2)	生活の質の構造と要素	
3	医療における QOL 評価 (1)	出発点としての QOL 評価、QOL の評価方法、	
4	医療における QOL 評価 (2)	評価に基づく QOL 改善向上の取り組み (疾患別)	
5	生活習慣 (1)	生活習慣、医療と生活習慣、生活習慣への働きかけ＝健康教育、疫学的に知られている生活習慣病のリスク要因	
6	生活習慣 (2)	生活習慣病のリスクの回避①食生活	
7	生活習慣 (3)	生活習慣病のリスクの回避②運動、③喫煙	
8	生活習慣 (4)	生活習慣病のリスクの回避④飲酒、⑤ストレス	
9	家庭経済 (1)	資本主義経済の中での家庭経済の位置、家庭経済の機能①モノの購入－家計支出、家計支出の内訳	
10	家庭経済 (2)	家庭経済の機能①モノの購入－家計支出の内訳 (続)、勤労者世帯の家計支出の特徴、モノの購入に着目した家庭経済の位置	
11	家庭経済 (3)	家庭経済の機能②労働力の再生産－労働力の再生産、労働力の再生産に着目した家庭経済の位置	
12	家庭経済 (4)	家庭経済の機能③貯蓄－経済循環の出発点としての貯蓄、	
13	家庭経済 (5)	家庭経済の機能④納税・社会保険料	
14	家庭経済 (6)	家庭経済内部の活動－6つの活動の循環：稼得、モノの購入、家事労働、消費、労働力の再生産、貯蓄、	
15	定期試験	常勤共稼ぎ世帯の収入と支出、	

教 科 書	使用しない。プリントによる (ファイルを用意のこと)
参 考 書	

授業科目名	家族学	単位認定者	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位（15コマ）	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識技術の形成を基礎づけることを目的とする。
学習到達目標	1. 近代家族の特徴、家族機能、家族周期、家族境界など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する 2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活と職業生活のあり方等についてより具体的に考えられるようになる 3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる
関連科目	関連し合う教養科目－生活学 性別の社会科学 地域社会学 心理学 老年心理学 この科目が基盤となる専門基礎科目－発達心理学 看護学入門 社会福祉・地域サービス論 人間発達学 この科目が基盤となる専門科目－地域理学療法学 生活環境学
成績評価方法	定期試験に平常点を加味して評価する

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	家族をとらえる(1)	近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 日本における家族の近代化	
2	家族をとらえる(2)	家族と世帯、世帯の動向、家族周期、家族過程における多元的時間、家族の発達と個人のライフコース	
3	家族をとらえる(3)	家族の各発達段階のライフタスクー夫婦と子どもから成る家族の場合：家族形成期、子産み・子育て期、子どもの思春期、子どもが巣立つ時期、加齢と配偶者の死の時期	
4	家族の機能(1)	近代家族が担ってきた基本機能=生活保障 生活保障の第一側面：家事労働 労働力再生産労働 家事労働の2種類 家事労働のこれまでとこれから	
5	家族の機能(2)	生活保障の第二側面：就労による家族の経済基盤の確保 共働き家族	
6	家族の機能(3)	生活保障の第三側面：感情機能 家族と地域社会 国際家族年に示された家族の理念と家族のゆくえ、	
7	家族をめぐる制度(1)	民法第四編 親族① 親族 婚姻	
8	家族をめぐる制度(2)	民法第四編 親族② 親子 後見 民法第五編 相続	
9	家族をめぐる制度(3)	戦前明治民法における「家」制度 「家」制度 明治政府はなぜ「家」制度を採ったのか 戸主と家族 「家」の世代的継続の象徴－氏と墓	
10	家族をめぐる制度(4)	“夫婦別姓”とはどういう問題か 現行民法において氏とは何か 民法 750 条をめぐる問い 模索されている案	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
11	家族機能の破綻とその解決援助（1）	児童虐待とはどういう問題か 調査結果から 児童虐待とドメスティックバイオレンス	
12	家族機能の破綻とその解決援助（2）	児童虐待への対応－予防、発見、危機介入（初期対応）、問題解決のための長期的対応	
13	家族機能の破綻とその解決援助（3）	児童虐待への対応の鍵概念－自己肯定感情、ネットワーク、児童虐待防止法	
14	家族機能の破綻とその解決援助（4）	ドメスティック・バイオレンス 総合的対策の必要 総合的対策の構成要素となる個別策 配偶者暴力防止法 加害者対応 高齢者虐待	
15	定期試験	定期試験	

教科書	プリントによる
参考書	「21世紀家族へ【新版】」落合恵美子（有斐閣） 「系統看護学講座 別巻15 家族論・家族関係論」（医学書院）

授 業 科 目 名	地 域 社 会 学	単 位 認 定 者	伊 藤 亜 都 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	我々の生活にとって地域社会とのかかわりは不可欠である。地域社会に関する基本的な知識を学びながら、現代社会で起こっている環境、家族、教育、福祉、防災などの問題について地域社会が果たせる役割を理解することを目的とする。講義を通して、地域社会において現在起こっている社会問題、自分の身近な地域などに対して関心をもつこと、理解を深める。
学 習 到 達 目 標	1 地域社会に関する基本的な知識（地域社会の概念、日本社会における歴史的な地域社会の状況、地域社会の構成要素など）を身につける。 2 地域社会で解決しうる現代社会の諸問題について学ぶ。 3 地域社会を身近なこととしてとらえ、地域社会に対して各自が関心と意見を持つ。
関 連 科 目	関連し合う教養科目 －老年心理学 生活学 家族学 ボランティア活動論 環境論 この科目が基盤となる専門基礎科目 －社会福祉・地域サービス論 この科目が基盤となる専門科目 －地域理学療法学 生活環境学
成 績 評 価 方 法	講義時間内に、何度か小レポートを行う。また、それぞれが地域社会について考えを持つことを期待しているため、グループごとに意見を出し合うワークショップを行う場合もある。定期試験、小レポート、平常点などを考慮して総合的に評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	地域社会学の概論(1)	地域社会、地域コミュニティの基本的知識	
2	地域社会学の概論(2)	戦後日本における「地域コミュニティ」の歴史①	
3	地域社会学の概論(3)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など) ①	
4	地域社会学の概論(4)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など) ②	
5	地域社会学の概論(5)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など) ③	
6	災害と地域社会(1)	阪神大震災から学ぶ①	
7	災害と地域社会(2)	阪神大震災から学ぶ②	
8	災害と地域社会(3)	災害ボランティアとは ①	
9	災害と地域社会(4)	災害ボランティアとは ②	
10	地域社会で活動する担い手(1)	住民主体論:地域社会で活動する人々や組織について	
11	地域社会で活動する担い手(2)	地域社会における代表的な組織としての自治会	
12	地域社会で活動する担い手(3)	地域社会で活動するボランティア・アソシエーション	
13	地域社会で活動する担い手(4)	地域社会における人々の個人的なつきあいであるパーソナル・ネットワークについて	
14	地域コミュニティの担い手(5)	ボランティア・NPOの可能性について	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
15	定期試験	筆記試験	

教科書	教科書は特に定めない。必要に応じて随時、資料を配布する。
参考書	「コミュニティ論」 倉沢進 (財) 放送大学教育振興会) 1998 「町内会と地域集団」 倉沢・秋元編 (ミネルヴァ書房) 1990

授 業 科 目 名	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 論	単 位 認 定 者	大 西 康 之
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	ボランティア活動と言われるものの本質を考えて見ると社会とのつながりや公共的活動がその中心であることが分かる。また、例えば、阪神淡路大震災を考えてみると単に福祉といえない広い範囲の仕事があることが分かる。ボランティアはこのように従前の福祉に限定されない活動が求められている。様々な綻びがで、乱れた現代社会はその解決のためこのような様々な社会活動が求められていて、ボランティア・NPO も急速に増加している。社会活動としてのボランティア活動や NPO についての正しい理解と知識を習得させ、地域社会の一員としての自覚とボランティア活動への参加を促すことを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 社会活動としてのボランティア・NPO などについての基本的な概念を習得する。 2. 社会の動きを理解し、今後必要と思われる活動や事業を具体的に考えられるようになる。 3. 自分が活動したいと思う分野の NPO 法人の定款を作ってみる。 4. ボランティア活動を実践する。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	定期試験に出席状況、平常点を加味し、実際にボランティア活動を実践したかどうかによって評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	ボランティア実践論	講師の 40 年のボランティア体験を講義する	
2	社会活動とボランティア (1)	講師が取り組んだ様々な社会活動 つつじヶ丘福祉施設、藤ヶ丘学園 桐生市ボランティア協議会準備会	
3	桐生市ボランティア協議会	30年の、桐生市ボランティア協議会運営の実際 [宮地由高講師]	
4	桐生市ボランティア協議会とそこからの発展	ボランティアセンターと実際の姿 災害ボランティアネットワークとその背景 阪神淡路大震災 日本海重油回収 新潟三条水害 新潟県中越地震[宮地由高講師]	
5	NPO 実践論	NPO法人わたらせライフサービス 10年のNPO 運営の実際 [宮地由高講師]	
6	ボランティア活動の実際	実際のボランティア活動と話し合い 講師が取り組んだ社会活動とボランティア	
7	NPO のマネージメント	NPO の組織 運営、資金調達 NPO のネットワーク[宮地由高講師]	
8	社会活動とボランティア (2)	講師が取り組んだ様々な社会活動 桐生に女性市議を当選させる会、生涯学習桐生市民の会、モデル事業委員会、地区推進委員など 桐生産地乃店、一店一作家 (一工場) 運動	
9	社会活動とボランティア (3)	講師が取り組んだ行政の特別職としての仕事 有隣館運営委員、公民館運営審議会、社会教育委員	
10	日本の社会活動と庶民教育 (1)	ボランティアの先人石田梅巖と石門心学(岡部栄信と昭和心学)、小谷三志と不二孝 (二宮尊徳)	
11	日本の社会活動と庶民教育 (2)	田沢義鋪と社会教育 (下村湖人) 青年団、理想選挙、修養団	
12	公民館とボランティア活動	寺中作雄、鈴木健次郎 文部 (科学) 省優良公民館表彰から	
13	高崎市のボランティア活動と社会教育	高崎市の公民館などのボランティア活動の実際 [高崎市教育委員会社会教育課植原孝行講師]	
14	社会教育法と日本の民主主義	寺中作雄、鈴木健次郎、井内慶次郎 市民活動、ボランティア、NPO と公民館、社会教育	
15	定期試験	筆記試験及びボランティア活動体験レポート提出	

教 科 書	
参 考 書	「特定非営利活動法人設立等の手引き」(群馬県合同庁舎内販売)

授業科目名	医療民俗学	単位認定者	板橋春夫
対象学年	第1学年	学期	前期集中
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	誕生や死に際して行われる伝統的な儀礼や慣行の研究を通して、日本人の「いのち」に関する民俗的思考を明らかにすることを目標とする。そこで本講義では、誕生・病気・健康・長寿・死をキーワードに医療と民俗の関わりについてさまざまなアプローチを試みる。
学習到達目標	(1) 誕生民俗の過去と現在のあり方を学ぶ。 (2) 病気・健康と民間療法を学ぶ。 (3) 長寿儀礼と死の文化を学ぶ。
関連科目	関連しあう教養科目—生命倫理
成績評価方法	出席40%、授業時試験60%

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1 2 3 4 5	(1) 誕生民俗と医療文化	丙午俗信と出産行動(俗信と医療文化) いのちの個別化(産死の身二つ慣行) 双子の民俗(生命選択) 名付けの由来(命名の民俗) いのちの保護(産婆の技術と呪術)	
6 7 8 9 10	(2) 病気・健康と民間療法	民間療法の世界(民間薬と呪術) 健康と癒し(健康飲料・健康ブーム) 急病人搬送の民俗(医療と伝統的習俗)	
11 12 13 14	(3) 長寿儀礼と死の文化	長寿銭の民俗(長寿観と伝統文化の創造) 看取りと臨終(介護と家族) 死の判定とタマヨビ(霊魂と俗信) 土葬から火葬へ(死者儀礼と現代社会)	
15		試験	

教科書	「いのちの文化人類学」波平恵美子(新潮社) 適宜、プリントを配布する。
参考書	「岩波講座宗教7巻(生命)」池上良正ほか編(岩波書店)

授 業 科 目 名	法 学	単 位 認 定 者	斎 藤 周
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	「法」というと「難しいもの、面倒なもの、私たちに関係ないもの」といった印象を持っている人が多いのではないだろうか。でも、実は、「法」は身近なものであり、私たちを守ってくれるし、私たちが幸せになるために使えるものでもある。そこでこの科目では、基本的人権・平和・民主主義といった問題を検討することを通じて、ひとりひとりが幸せに生きられる社会のあり方を考える。
学 習 到 達 目 標	法律の条文や解釈を暗記することは必要ない。履修者が政治・経済・社会への認識を深め、主権者として成長すること、あるいはより一般的に言えば、事実に基づいて論理的にものごとを考える力をつけることを目標とする。
関 連 科 目	[他の教養科目で関連の深そうなもの] 経済学、国際関係論、性別の社会科学、家族学、教育学
成 績 評 価 方 法	論述式の筆記試験またはレポートにより評価する。(自分の考えを、説得力をもって説明できているかどうか) を、評価の基準とする。なお、授業回数数の3分の1を超えて欠席した場合は、履修を放棄したものとみなし、評価の対象としない。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	序論	法とは何か、憲法とは何か	
2	人権①	人身の自由 (死刑制度、冤罪)	
3	人権②	表現の自由 (選挙運動の自由、報道の自由)	
4	人権③	信教の自由と政教分離 (靖国神社参拝問題)	
5	人権④	教育と人権 (義務教育と不登校)	
6	人権⑤	家族と人権 (夫婦別姓)	
7	人権⑥	労働と人権 (過労死を作り出す企業社会)	
8	人権⑦	平等原則と個人の尊重	
9	民主主義①	民主政治と独裁政治	
10	民主主義②	国民主権と象徴天皇制	
11	平和①	日本の戦争と戦争責任・戦後責任	
12	平和②	原爆投下と日本の敗戦	
13	平和③	憲法9条2項 (戦力の不保持) と自衛隊・在日米軍	
14	平和④	戦争をするアメリカ、派兵する日本 (改憲論の現在)	
15	定期試験		
	各回の授業内容と順番は、変更することがある。		

教 科 書	使用しない。
参 考 書	「新版 主権者はきみだ」森英樹 (岩波書店 岩波ジュニア新書)

授 業 科 目 名	経 済 学	単 位 認 定 者	武 井 昭
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	今日においては「お金」なしには生きていけない。「お金」を安定して稼ぐには、今日の「経済」の仕組みを正しく認識することが不可欠である。今後急速に進展する「少子・高齢社会」の中でこのことを実現することは容易ではないが、本講義では、「少子・高齢社会」の到来とこれまでの「経済」の関係を可能な限り体系的具体的に捉えることを通じて、フリーター・ニート、年金、医療、介護など今日直面する諸問題の克服の可能性を考査する。
学 習 到 達 目 標	自分なりに理解したことをスタディし文書で表現すること。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	レポート (400 字詰め原稿用紙 15 枚以上)

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	ガイダンス	今日の「経済」は「工業経済」がその価値の中心を形成し、その価値づけについては「市場」(マーケット)で行うということが中核をなしているために、「お金」での評価の比重が大きくなる。それにつれて、このこととこれ以外の社会的な事柄との関係において軋轢が生じ、社会経済問題となる。こうした視点から講義を展開する。	
2	経済と社会の関係		
3			
4	工業経済と市場経済の統合		
5	経済発展と技術革新		
6	経済成長と社会保障		
7			
8	高齢化社会のメカニ		
9	ズム		
10	少子・高齢社会の到		
11	来		
12	介護・福祉・健康と		
13	労働 (女性の社会 化・フリーター問題)		
14	看護・リハビリの社		
15	会経済学		

教 科 書	「生活と福祉の社会経済学」武井昭 (高文堂出版社) 2000 年
参 考 書	

授 業 科 目 名	国 際 関 係 論	単 位 認 定 者	藤 本 凡 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	国際社会とは、対立の構造を抱えつつ相互に依存し共通する利益の追求を図ろうとする、「力」の交錯した社会である。ここでは、国家のみならず「信念」をもつ個人やその団体も行動主体となりうる。信念は、物事の本質を見極める力を持ち思考を重ねることをへてこそ揺るがないものとなるはずである。本講義では、「階層」をキーワードに、国際社会の構造、その中で機能する法や制度の成り立ち、そしてそれらの変革に関わる動きを、経済的・政治的観点から読み解いていく。国際協力に関心のある学生に対して、巨視的立場から世界の「力関係」を学び、自身の立場を考える機会を提供するものである。
学 習 到 達 目 標	1. 勢力均衡から覇権獲得競争、東西対立、南北対立へという「国際社会の構造変動」について学ぶとともに、主権国家の成立期にさかのぼって「工業化と国家の関係」に注目することで、構造変動の本質を把握する。 2. 国際協力と国際機構の関係、そしてとくに国連の機能とその舞台において繰り広げられる加盟国の政治的・経済的な「力の交錯」状況を把握することで、国際協力の枠組みの理想と現実を理解する。 3. 近代以降の国際舞台の主役、「主権国家」の変貌の可能性を、欧州連合を例に探る。 4. 可変的な国際社会の構造、そこにごめく力関係のなかにあつて、個人はどのような場面・立場で国際社会に参加できるのか、またはできないのか、個人的な意見を持てるようになる。
関 連 科 目	関連し合う教養科目—法学 経済学 この科目が基礎となる専門基礎科目—国際医療協力
成 績 評 価 方 法	定期試験に出席状況、レポート（1回実施）の点を加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	社会科学の研究 国際関係論史(1)	①研究とは②情報の収集と取捨選択 I 大戦～1920年代の理想主義的アプローチ 例：国際法・国際機構論	
2	国際関係論史(2)	現実主義的アプローチから新たなアプローチへ 例：①パワー・国益の重視②政治学の科学研究 ③巨視的理論の構築	
3	国際関係と演劇 〈舞台〉国際体系(1)	舞台・役者・演技・ドラマ 西欧国家体系の成立と拡大 ①主権国家	
4	国際体系(2)	②主権国家と「工業化」 ③勢力均衡から覇権国家の登場へ・覇権の推移 ④「極」の対立～東西対立・南北対立	
5	〈演技〉目的実現 のために	①演技力～国力とは②演技の道具～外交交渉・制裁・ 援助・交流③外交政策の決定過程	
6	〈役者/ドラマ〉 外交政策の特徴(1)	イギリス（覇権国から旧覇権国へ）・アメリカ（外部 から覇権国へ）の外交政策	
7	外交政策の特徴(2)	日本（外部から非覇権中心国へ）の外交政策	
8	南北の構造対立	①経済援助の思惑②発展途上国の主体的要求	
9	〈舞台/役者/ドラマ〉 国際社会の組織化	①国際機構はなぜ必要か ②国際機構の中の平等・不平等 ③国家・国際機構・超国家の関係	
10	国際連合①	安全保障の仕組み①憲章上の仕組み②実際の運用	
11	②	経済協力の仕組み①平和と経済協力②発展途上国と 国連・国連ファミリー	
12	欧州連合①	①欧州共同体の誕生②「超国家」への試練	
13	②	①経済統合から政治統合へ②欧州連合の拡大	
14	レポート評価と討論	個人はいかなる場面・立場で国際社会に参加できるか	
15	試験	筆記試験	

教 科 書	「新国際関係論」花井等（東洋経済新報社）
参 考 書	「国際政治経済学をめざして」川田侃（お茶の水書房） 「ポスト覇権システムと日本の選択」猪口邦子（筑摩書房） 「国際機構論」最上敏樹（東京大学出版会） ほかに適宜、指示

授 業 科 目 名	性 別 の 社 会 科 学	単 位 認 定 者	内 藤 和 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	1. 高度経済成長期以降の日本における、「性別」を組み込んだ社会のありようを解説し、それがどのような問題を生み出してきたかを理解する 2. 若い人たちが形成のその担い手となる、性別に関して公正な社会像を明らかにし、そこに至る具体的な方策を考える
学 習 到 達 目 標	1. 日常生活・社会生活の中にある、性別に関するさまざまな社会慣習、社会通念を認識できる 2. 1のような従来の慣習・通念にどのような問題があったのかが理解できる 3. 2のような問題を乗り越えた、性別について公正で、どのような性別の人にもより生きやすい社会の姿を認識できる 4. 3のような社会へと向かうなかで社会人・生活者・市民となっていく自分自身の生き方をより具体的に考えることができる
関 連 科 目	【関連する教養科目】 家族学、生活学、法学
成 績 評 価 方 法	講義を踏まえ、課題に対する自身の分析・解釈・見解を論述する形の試験を実施する。試験点に出席点を加味して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	戦後日本社会と性別 (1)	データに見る「現代日本社会と性別」	
2	戦後日本社会と性別 (2)	データに見る「現代日本社会と性別」(続)	
3	戦後日本社会と性別 (3)	「女性」「男性」をめぐる規範	
4	戦後日本社会と性別 (4)	高度経済成長期における性別分業の形成—分業の3軸、第1の性別分業：有償労働と無償労働	
5	戦後日本社会と性別 (5)	高度経済成長期における性別分業の形成—第1の性別分業：社会的労働と私的労働 (続き)	
6	戦後日本社会と性別 (6)	高度経済成長期における性別分業の形成—第2の性別分業：産業雇用労働の中の性別分業 (基幹労働と周辺労働)	
7	戦後日本社会と性別 (7)	高度経済成長期以降の性別分業—第1・第2, 2つの性別分業の関係	
8	戦後日本社会と性別 (8)	第3の性別分業—男性:政治/女性:政治への非関与。その根としての「家」制度	
9	性別について公正な社会へ (1)	性別秩序はなぜ問題にされるようになったか、性別秩序を越えた社会	
10	性別について公正な社会へ (2)	社会的労働と私的労働のゆくえ、能力と努力と状況対応秩序の社会への途。国・地方自治体、市場、市民そのぞれができること	
11	ケアと性別 (1)	ケアとは、他者のケアを役割にするということ、ケアの役割化に伴うリスク	
12	ケアと性別 (2)	愛とケア、ケア観の成熟、ケアの脱役割化	
13	摂食障害と女性	「摂食障害と女性」を結ぶ2系統の社会的次元の説明	
14	男性学	「摂食障害と女性」をケアと結ぶと 男性規範とそれが生む問題	
15		定期試験	

教 科 書	プリントによる (プリント保存用のファイルを用意すること)
参 考 書	「女性のデータブック 第4版」井上輝子、江原由美子他編 (有斐閣) 2004 「男女共同参画白書 2005 年度版」内閣府 (財務省印刷局) 2005

授 業 科 目 名	環 境 論	単 位 認 定 者	西 菌 大 実
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。
学 習 到 達 目 標	1 環境問題の背景と発生原因への理解 2 生活環境問題とその対策、関連する法制度の理解 3 地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解 4 循環型社会、持続可能社会への認識
関 連 科 目	生活環境学 生活環境学実習 日常生活活動学 日常生活活動学実習
成 績 評 価 方 法	レポート（前期終了時実施予定）、定期試験（後期終了時実施予定）を重視する。 出席状況、平常点を参考とする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	環境とは	環境問題の範囲と背景	
2	地球の環境の構造	地球の自然の成り立ち	
3	生活を支える資源	再生可能資源と再生不能資源	
4	環境問題の変遷	公害問題から地球環境問題への歴史的・内容的変遷	
5	典型七公害(I)	水質汚濁、土壌汚染	
6	典型七公害(II)	大気汚染、悪臭	
7	典型七公害(III)	騒音、震動、地盤沈下	
8	四大公害	水俣病、イタイイタイ病	
9	生活環境問題まとめ	公害対策の歴史、法制度	
10	オゾン層破壊(I)	オゾン破壊物質、オゾン層の状況と見通し	
11	オゾン層破壊(II)	対策、ウィーン条約モントリオール議定書	
12	地球温暖化(I)	温室効果ガス	
13	地球温暖化(II)	気候変動の状況と見通し	
14	地球温暖化(III)	対策、気候変動枠組条約京都議定書	
15	酸性雨	燃焼生成物、硫酸・硝酸の生成	
16	生物の多様性など	生物多様性、砂漠化、海洋汚染、熱帯雨林	
17	地球環境問題まとめ	予防原則、世代間公平の原則、先進国途上国の責任	
18	エネルギー問題(I)	日本の1次エネルギー現状	
19	エネルギー問題(II)	再生可能エネルギー、自然エネルギー	
20	エネルギー問題(III)	エネルギー利用効率、コジェネレーション	
21	廃棄物問題(I)	一般廃棄物、産業廃棄物	
22	廃棄物問題(II)	医療廃棄物、感染性廃棄物、特定管理廃棄物	
23	廃棄物問題(III)	廃棄物処理の過程	
24	食品の安全性(I)	食料生産の現状、窒素循環	
25	食品の安全性(II)	フードマイレージ、検疫薫蒸	
26	食品の安全性(III)	ダイオキシン、環境ホルモン	
27	難分解性汚染物質	有機塩素化合物、POPs、生物濃縮	
28	循環型社会	3R、熱回収、適正処分	
29	持続可能社会	再生可能資源中心の社会づくり	
30	定期試験	筆記試験	

教 科 書	
参 考 書	「平成17年版環境白書」 環境省編（ぎょうせい）

授 業 科 目 名	情 報 処 理	単 位 認 定 者	松 田 芳 健
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および演習
科 目 の 目 的	情報化社会の進展により、保健医療職者にコンピュータと情報処理の知識・技術は不可欠となっている。この科目は、コンピュータを用いた情報処理の方法と基礎的な技能を演習しながら体得していくことを目的とする。
学 習 到 達 目 標	Word Excel を使用した文書作成・編集、計算機能の基礎技能を習得する。 グラフ作成、検索等データ処理の基礎的な手法とその理解する。
関 連 科 目	情報学
成 績 評 価 方 法	出席状況、課題提出、平常点を加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	概説・基本操作	講義の内容説明、コンピュータの基本操作	
2	入力・データ保存	文字入力、ファイル操作、ファイル管理	
3	文書作成 (1)	文書の構成、基本	
4	文書作成 (2)	Word の機能	
5	文書作成 (3)	文書の編集・校正	
6	文書作成 (4)	図表の作成、活用	
7	文書作成 (5)	文書管理、文書の活用	
8	文書作成 (6)	まとめの課題演習	
9	表計算 (1)	データ入力、計算	
10	表計算 (2)	関数の利用・算術関数、統計関数	
11	表計算 (3)	関数の利用・論理関数	
12	表計算 (4)	グラフ機能・作成、加工	
13	表計算 (5)	ワークシート・ブックの活用	
14	表計算 (6)	データベース機能	
15	まとめの課題	まとめの課題演習	

教 科 書	プリントによる (ファイル等での配布を予定)。
参 考 書	

授 業 科 目 名	情 報 学	単 位 認 定 者	松 田 芳 健
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義 (演習含む)
科 目 の 目 的	高度情報化社会を迎え、保健医療職者にコンピュータと情報処理の知識・技術は不可欠である。現代の情報システムは、いくつかの表現方法で表された情報が統合され、分類、検索、ネットワークなどの理論に基づいて構築されている。この科目では、コンピュータのしくみ、コンピュータの機能、情報表現、情報の分類整理、情報検索、ネットワークなどを概観し、情報システムについて理解することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	コンピュータおよび通信ネットワークに関する基礎的な知識を習得する。 情報処理とネットワークに接続して利用するコンピュータの成り立ちを知り、自ら利用するため情報技術の基礎を理解する。
関 連 科 目	情報処理
成 績 評 価 方 法	課題提出、出席状況、平常点を加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	概説	講義内容の説明・情報化社会について	
2	情報処理とは	情報とは、処理とは	
3	情報処理の方法	情報技術の発展・展開と情報の表現	
4	情報表現 (1)	デジタルとアナログの特徴	
5	情報表現 (2)	情報の数値化、数値化したデータの処理	
6	情報の分類・検索	情報の収集、蓄積、分類と活用	
7	情報システム (1)	情報の表現、整理の考え方	
8	情報システム (2)	情報の整理と活用	
9	情報システム (3)	データ構造とその設計	
10	情報システム (4)	これまでのまとめ課題	
11	通信	通信の仕組み	
12	ネットワーク	ネットワークの利用、情報の共有	
13	インターネット	インターネットの利用と発展、課題	
14	予備日	課題演習	
15	まとめの課題	筆記問題	

教 科 書	プリントによる。
参 考 書	

授 業 科 目 名	総 合 講 座	単 位 認 定 者	内 藤 和 美 他
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指導方法	講義、演習
科目の目的	設定したテーマについて、専門の異なる複数の教員が異なる角度から論じることにより、当該テーマを多角的・多角的に考察することを目的とする。本年度のテーマを「ライフワークと私」とし、学生が役割モデルを見出し、また、自身の人生を考える契機としたい
学習到達目標	各自の職業人、社会人としての将来像をより具体的に考えられるようになる
関連科目	【この科目が基盤となる専門基礎科目】看護学入門、リハビリテーション概論
成績評価方法	講義を踏まえたグループワークの成果物および個人のレポートに出席点を加味して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	オリエンテーション	異なる分野の研究・教育・実践をライフワークとする教員が、自身とライフワークを語るオムニバス形式の講座である。本講座にはコーディネイターを置く。コーディネイターは、担当者間の連絡調整、講義と講義の関連づけ、講義を踏まえた学生のグループワークの運営等講座全般の運営にあたる。	
2	ジェンダー研究	総合講座の趣旨、テーマ、運営方法、期待すること等を説明する。また、基本概念（ライフワーク、役割モデル、縁と機、等）について解説する（コーディネイター 内藤和美）	
3	精神看護学・認知症高齢者の看護学	専門を替え、男女共同参画社会形成関連の政策過程を中心とするジェンダー・スタディーズの研究・教育をライフワークとするようになった者として（内藤和美）	
4	理学療法学	精神看護学、認知症高齢者の看護に関する教育・研究をライフワークとする者として（齋藤和子）	
5	地域保健学	新生児から高齢者、超早期から慢性期という幅広い臨床の実践者としての経験の後、理学療法の基礎と臨床の研究・教育をライフワークにするようになった者として（江口勝彦）	
6	スポーツ科学	地域で生活する精神障害者を支えるシステムづくりを中心に、地域保健の研究・教育・実践をライフワークとする者として（矢島正栄）	
7	まとめ	肥満関連ホルモンレベルに及ぼす運動の効果の研究を中心に、スポーツ科学の研究・教育・実践をライフワークとする者として（近藤照彦）	
		各人が、保健医療専門職および関連分野の先輩である各教員の自身とライフワークの開示を受け止めて自身のこれからを考えるための視点を提示する。それに基づいて各自がまとめに取り組む（コーディネイター 内藤和美）	

教 科 書	使用しない（各教員が用意する）
参 考 書	

授 業 科 目 名	保 健 統 計 基 礎	単 位 認 定 者	石 井 満
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	従来、臨床現場での推定や判断は経験的・感覚的な事柄が基本となっていることが多く科学性が稀薄であり、時には主観的でさえあった。このことを是正することが必要であり、このための大きな手法が統計学に基づく科学的解析であり、この方向性が先進国の基本的傾向である。以上のことに基づき、臨床データの分析方法を理解し、応用することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	臨床データの分析目的とそれに対応する各方法を理解し、的確に応用できるようになること。このために、可能な限り多種類の臨床データを例題として配布するとともに理論補強のプリントを随時大量に配布する。平方根（ルート）の付いている電卓を用意すること。
関 連 科 目	全ての専門科目
成 績 評 価 方 法	出席状況、レポート、定期試験等を総合的に評価する。（出席重視）

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1 ～ 5	統計学とは ～ 資料(データ)の整理	統計学の概要と、臨床例を用いてその必要性を述べる。 平均、限られた範囲での平均、分散、標準偏差、度数分布、相関の各意味と応用	
6 ～ 8	正規分布	正規分布の誘導と応用	
9 ～ 10	標本と標本分布	標本と標本抽出。平均 \bar{x} や二項、カイ 2 乗、t、F の各分布	
11 ～ 15	推定理論	点推定、真の値の（平均値、分散等の）区間推定	
16 ～ 19	検定理論	理論の構造、t 検定、F 検定	
20 ～ 22	クロス集計とカイ 2 乗検定	クロス集計とその応用、独立性および適合度検定	
23 ～ 25	回帰分析	回帰分析、相関分析、分散分析表、重回帰分析	
26 ～ 29	調査と質的データ	数値で表せないデータ（質的データ）、 数量化Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類	
30	期末試験 (別に、前期中にテストをすることもありうる。)		

教 科 書	「やさしい医療系の統計学」佐藤敏雄、村松宰 著（医歯薬出版）
参 考 書	「データのまとめ方使い方」中元藤茂他（医歯薬出版） 「統計技術とその理論」石井 満（森北出版）、他 講義時に紹介する。

授 業 科 目 名	生 物 学 基 礎	単 位 認 定 者	柴 田 雅 祥
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講 義
科 目 の 目 的	遺伝子診断、遺伝子治療、オーダーメイド医療など今後の医療分野では、分子生物学をはじめとする生物学に関する知識が必須であり、今後その重要性はますます高まってゆくと考えられる。そのような状況をふまえ、本講義では「細胞」、「遺伝 (分子生物学)」、「生体内化学反応」、「発生」といった観点から、医療分野への応用につながる生命現象の基本を学習する。また、本講義は高校で生物を学んでこなかった者を対象とした講義であり基礎的知識の習得を目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 生命の最小単位である細胞についての理解 2. DNA など遺伝現象の基礎知識の習得、及びそれを応用した遺伝子診断などについて理解 3. 生体内で生じている化学反応についての基礎知識の習得 4. 細胞の多様性を生み出す発生についての理解
関 連 科 目	関連し合う教養科目－生命科学 この科目が基盤となる専門基礎科目－生化学、生理学、生理学実習、運動生理学、病理学、栄養学、免疫・感染症学
成 績 評 価 方 法	筆記試験の結果にて評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	イントロダクション	本講義の目的、進め方、目標等の説明	
2	細胞 (1)	細胞とは、細胞小器官とは	
3	細胞 (2)	細胞膜、核	
4	細胞 (3)	ミトコンドリア、ゴルジ体、小胞体	
5	細胞 (4)	リボゾーム、細胞骨格	
6	遺伝現象 (1)	遺伝子 DNA について、セントラルドグマ	
7	遺伝現象 (2)	DNA の複製	
8	遺伝現象 (3)	転写	
9	遺伝現象 (4)	翻訳	
10	遺伝現象 (5)	遺伝子診断、オーダーメイド医療	
11	生体内化学反応 (1)	タンパク質、酵素	
12	生体内化学反応 (2)	呼吸	
13	発生 (1)	細胞分化、発生	
14	発生 (2)	ガン	
15	試験	筆記試験	

教 科 書	「好きになる分子生物学」萩原清文 (講談社) 上記に加え随時プリントを配布する。
参 考 書	指定なし。

授業科目名	化学基礎	単位認定者	吉 國 忠 亜
対象学年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義は板書およびパワーポイントを使って教示し、幾度か簡単な示唆実験と合成実験を演示する。
科 目 の 目 的	化学の歴史は古くから基幹学問の一部を形成しており、医学との関連も深く密着している。高校で化学を学ばなかった学生に対しても判り易く、看護学・理学療法の学習に必要な化学の基本を学ぶ。
学 習 到 達 目 標	化学の領域は密接に医学と結びついているので、化学を知ることにより、看護学や理学療法の治療・処置・治験を深く理解できる。高校の化学教科書に記載の一般的知識を土台にして、その分野の真髄を深く追求する。
関 連 科 目	高校の化学教科書が理解できるような一般的な化学全般を科目とするが、更に生化学、放射化学、天然物化学も含めている。
成 績 評 価 方 法	講義毎に行なう小テストと出席点および学期末定期テストを加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	物質の構成	周期表、原子、水素、同位体、放射能	(極超短波)
2	化学結合	種類；イオン、配位、共有、金属、水素	(金属強度)
3	物質の量	パーセント濃度、モル、規定度、アボガドロ数	
4	物質の状態変化	三態、化学平衡、分子軌道、同素体	
5	気体の性質	状態方程式、昇華、加熱組成曲線	
6	溶液の性質	水、溶媒和、組成曲線、酸解離定数、	
7	化学反応と熱	反応次数、活性化熱、ボルン・ハーバー	
8	酸と塩基の反応	中和反応、PH, 指示薬、緩衝液、	(バリウム X 線源吸収)
9	酸化還元反応	酸化数、形式電荷、酸化還元剤	
10	非金属元素と周期表	典型元素、ハロゲン、酸素、	(呼吸機能)
11	金属元素の性質	構造、反応、伝導度、アルカリ土類、遷移	
12	有機化合物の構造	異性体、立体、不斉、アミノ酸、核酸、ビタミン	
13	脂肪族炭化水素	アルカン、エチレン、アセチレン	
14	脂肪族酸化化合物	アルコール、アルデヒド、ケトン、エステル	(ケトン症候群)
15	芳香族化合物	ベンゼン、複素環、ステロイド	

教 科 書	
参 考 書	

授 業 科 目 名	物 理 学 基 礎	単 位 認 定 者	横 井 利 男
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	演 示 実 験 ・ 講 義
科 目 の 目 的	看護や理学療法には、熱、温度、力、運動など物理学の知識が必要である。また、最新の医療機器には原子構造や量子論など最先端の物理学の成果を活用しているものが少なくない。 この科目は、高等学校で物理 I、II、理数物理を履修していない学生を想定して、最小限必要な物理学の教養を身につけることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	物理現象を分析的に追究し、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 古典的な物理現象については、数学的に解釈し、処理することができるようにする。
関 連 科 目	運動学 物理療法学
成 績 評 価 方 法	定期試験等により、物理学の基本的な概念、原理、法則について理解の程度を評価する。 中間レポート等により、物理事象への興味・関心の広がりや深まりを評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	力学	・物理量と単位	
2		・つりあい・力・重力	
3		ベクトル	
4		・運動・速度と加速度・重力の加速度 運動方程式 ・エネルギーの保存 運動エネルギーと位置エネルギー	
5	熱力学	・熱エネルギー	
6		(熱と温度・エネルギーの変換) ・原子、分子の運動 (物質の三態・分子の運動と圧力)	
7	波	・いろいろな波	
8		・音と光 (音の伝わり方・音の干渉と共鳴・光の伝わり方 光の回折と干渉)	
9	電磁気学	・電界と磁界	
10		(電荷と電界・電流による磁界)	
11		・電磁誘導 ・電磁波	
12	現代物理学入門	・原子の構造 (電子の軌道とスペクトル)	
13		・量子論	
14		・固体の性質 (半導体) ・粒子と波	
14		・原子核の構造 ・素粒子と宇宙	
15	定期試験	筆記試験	

教 科 書	プリントによる
参 考 書	「基礎からの物理学」原 康夫 (学術図書出版社)

授 業 科 目 名	英 語 基 礎	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	大学での英語学習についていけるよう、今までに学習してきた英語の基本事項の復習。
学 習 到 達 目 標	基本英文法力の強化、正確な発音、英和辞書の活用。
関 連 科 目	【この科目が基盤となる教養科目】—総合英語 英語表現
成 績 評 価 方 法	出席状況、授業への取り組み姿勢、中間試験、前期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	Introduction	授業の説明	
2	Unit 1, 2	5 文型と述語動詞、 準動詞(不定詞と動名詞)	
3	Unit 3, 4	準動詞(分詞)、名詞	
4	Unit 5, 6	代名詞、形容詞	
5	Unit 7, 8	冠詞、副詞	
6	Unit 9, 10	前置詞	
7	Extra 1 Extra 3	辞書の使い方、語形成	
8	中間試験		
9	Unit 11, 12	助動詞、句動詞	
10	Unit 13, 14	接続詞	
11	Unit 15, Extra 3	比較、パラグラフ	
12	Unit 16 17	時制 1、 完了形と未来形	
13	Unit 18, 19	能動態と受動態、時制 2	
14	Unit 20, Extra 4	条件と否定 発音と強勢	
15	Examination		

教 科 書	「Basic College English Seminar 新しくはじめる大学英語演習」竹前 文夫編 (南雲堂) 2006 年
参 考 書	英和辞典 (必携)

授 業 科 目 名	解 剖 学 I	単 位 認 定 者	浅 見 知 市 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・見学実習
科 目 の 目 的	理学療法を学ぶための最も基本的な知識である人体の構造を学ぶ。各器官系ごとに骨格系、筋系、脈管系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系に分け、それぞれ関連づけながら学習していく。
学 習 到 達 目 標	1、人体の基本的な構造を説明できる。 2、理学療法を学ぶための基礎知識としての解剖学を習得している。 3、疾患、病態との関係を説明できる。
関 連 科 目	生理学 運動生理学 各臨床科目
成 績 評 価 方 法	中間試験と定期試験で評価する。 ※解剖学見学実習に参加することを単位認定の条件とする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	解剖学概説	解剖学とは何か、どのようなことを学ぶか。器官系	I-1. 解剖学
2	組織学概説	組織とその分類	A 総論
3	骨格系 1	骨総論	a 定義、目的、分類
4	骨格系 2	頭部の骨	b 細胞と組織
5	骨格系 3	脊柱、胸郭	C 形態発生
6	骨格系 4	上肢の骨格、下肢の骨格	B 骨格系
7	筋系 1	筋総論、頭頸部の筋	a 骨の構造と分類
8	筋系 2	胸腹部の筋	b 関節の構造と分類
9	筋系 3	上肢の筋、下肢の筋	C 各部の骨、靭帯、間接
10	脈管系 1	脈管総論、心臓	C 筋系
11	脈管系 2	動脈系	a 筋の構造と形態、作用
12	脈管系 3	静脈系、胎生期の循環系	b 各部の筋、腱
13	脈管系 4	リンパ系、脾臓、胸腺、血液、血球	D 神経系
14	消化器系 1	総論、口腔	a 中枢神経系
15	消化器系 2	咽頭、食道、胃	b 末梢神経系
16	消化器系 3	小腸、大腸	E 脈管系
17	消化器系 4	肝臓、胆嚢、膵臓	a 心臓
18	呼吸器系 1	総論、鼻腔、副鼻腔、喉頭	b 動脈系
19	呼吸器系 2	気管、気管支、肺	C 静脈系
20	泌尿器系	腎臓、尿管、膀胱、尿道	d リンパ系
21	生殖器系 1	男性生殖器	F 内蔵諸器官
22	生殖器系 2	女性生殖器	a 消火器
23	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓	b 呼吸器
24	神経系 1	総論、中枢神経系（脊髄、延髄、橋、小脳、中脳）	C 泌尿・生殖器
25	神経系 2	中枢神経系（間脳、大脳、脳の血管、脳室、脳脊髄膜）	d 内分泌腺
26	神経系 3	末梢神経系（脳神経）	G 感覚器
27	神経系 4	末梢神経系（脊髄神経、自律神経）	
28	神経系 5	伝導路（反射路、求心性伝導路、遠心性伝導路）	
29	感覚器系 1	視覚器、平衡聴覚器	
30	感覚器系 2	皮膚	

教 科 書	「標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野解剖学第2版」野村巖（医学書院）
参 考 書	「人体解剖学」藤田恒太郎（南江堂）

授 業 科 目 名	解 剖 学 II	単 位 認 定 者	石 川 春 律 ・ 浅 見 知 市 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	骨、筋、関節などの運動器、末梢および中枢神経系、感覚器の構造の詳細を機能と関連させつつ局所解剖学的に学習する。
学 習 到 達 目 標	1、上肢、下肢、体幹の運動を筋学、靭帯学、神経学、血管学を互いに関連させ、運動器としての統合機能を学び、機能障害との関連を理解する。 2、中枢神経系および感覚器の構造を機能との関連で学び、機能障害との関連を理解する。
関 連 科 目	生理学 運動生理学 臨床各科
成 績 評 価 方 法	定期試験による。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	上肢 1	上肢帯、上腕	I-1. 解剖学 B 骨格系 a 骨の構造と分類 b 関節の構造と分類 c 各部の骨、靭帯、関節 C 筋系 a 筋の構造と形態、作用 b 各部の筋、腱 D 神経系 a 中枢神経系 b 末梢神経系
2	上肢 2	前腕、手	
3	下肢 1	下肢帯、大腿	
4	下肢 2	下腿、足、歩行	
5	体幹 1	背部、脊椎、固有背筋	
6	体幹 2	胸部、呼吸筋	
7	体幹 3	腹部、腹筋	
8	頸部	頸部、前頸筋	
9	頭部	頭部、頭蓋、顔面、表情筋	
10	中枢神経系 1	脊髄、延髄、橋、小脳	
11	中枢神経系 2	中脳、間脳、終脳	
12	中枢神経系 3	神経路	
13	末梢神経系	脳神経、脊髄神経、自律神経系	
14	解剖見学		
15	解剖見学		

教 科 書	「標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野解剖学第2版」野村巖（医学書院）
参 考 書	「人体解剖学」藤田恒太郎（南江堂）

授 業 科 目 名	表 面 解 剖 学 と 触 診 法	単 位 認 定 者	高 橋 正 明
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	演 習
科 目 の 目 的	理学療法士は運動器および運動機能の障害についての専門家である。その専門性を4年かけて学ぶわけであるが、その中の技術領域において最初に習得すべきことが体表解剖の知識と身体部位を体表面から触知できる能力であり、その修得がこの科目の目的とするところである。また、運動学と同時並行で授業をすすめ、人の運動を可能にする構造と機能の関連をより深くかつ実際に理解できるようになることも目的である。
学 習 到 達 目 標	1. 骨の部位、関節裂隙、靭帯、筋、腱、動脈を触知により区別できる。 2. 体表から触れることができるそれらの部位を解剖学アトラスで参照できる。 3. それらについて名称を言うことができる。
関 連 科 目	関連し合う科目 －解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 運動学 この科目が基礎となる科目 －全ての専門科目
成 績 評 価 方 法	実技試験および授業への出欠や実習への積極性を加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	オリエンテーション	オリエンテーション	I-1. 解剖学 H. 体表解剖
	足部	足部の体表解剖演習と触診実習	
2	下腿	下腿の体表解剖演習と触診実習	
3	膝	膝の体表解剖演習と触診実習	
4	膝	膝の体表解剖演習と触診実習	
5	大腿	大腿の体表解剖演習と触診実習	
6	骨盤	骨盤の体表解剖演習と触診実習	
7	骨盤	骨盤の体表解剖演習と触診実習	
8	体幹	体幹の体表解剖演習と触診実習	
9	頭・頸部	頭・頸の体表解剖演習と触診実習	
10	肩甲帯	肩甲帯の体表解剖演習と触診実習	
11	肩甲帯・上腕	肩甲帯・上腕の体表解剖演習と触診実習	
12	肘・前腕	肘・前腕の体表解剖演習と触診実習	
13	前腕	前腕の体表解剖演習と触診実習	
14	手・指	手・指の体表解剖演習と触診実習	
15	手・指	手・指の体表解剖演習と触診実習	
	試験	実技試験	

教 科 書	「図解 四肢と脊柱の診かた」 Hoppenfeld, H 著 野島元雄監訳 (医学書院) 「解剖学図解アトラス 第5版」 Rosen, JW 横地千仞 他 (医学書院)
参 考 書	「触診解剖アトラス 頸部・体感・上肢」 Tixa, S 著 奈良勲監訳 「触診解剖アトラス 下肢」 (医学書院)

授業科目名	解剖学実習	単位認定者	岸 紘 一 郎
対象学年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (2 2 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義, 学内演習・実習, 学外実習
科 目 の 目 的	人体構造を主として肉眼レベルで学習する. 篤志献体の御遺体または動物を実際に解剖することにより, あるいは写真を多用した図譜により, 人体の構造の理解を目指す. また, 必要に応じて実習講義, 学生参加型の演習を行う.
学 習 到 達 目 標	解剖学実習においては, 局所に剖出した構造を全体の中で位置づけることが出来るようになる. この実習の目標は, ①臨床の場においても必要とされる観察力の養成, ②人体構造の三次元的な理解, ③生命倫理の基として「生」と「死」について洞察の獲得である. 学習到達目標としては, ①臨床の場における症状, 病変, 病態, 障害構造の把握や研究においても必要とされる観察眼の涵養, ②他の基礎医学, 臨床医学, 理学療法関連科目の学習をより強固な裏付けを持ったものにするために, 複雑な空間配置をとる人体諸器官・諸構造の具体的なイメージ・知識を得る, ③人間性豊かな臨床家になるために, 感謝の念を持って篤志献体や動物と向き合い, 対話しつつ解剖を行うことにより生死について深い洞察を得ることなどが挙げられる.
関 連 科 目	解剖学 I・II, 表面解剖学と触診法, 運動学, 運動学実習, 病理学, 画像診断学, 内科学, 外科学, 整形外科 I・II, 神経内科学 I・II, 脳神経外科学, 理学療法評価学, 臨床運動学, 運動器系理学療法など理学療法治療学全般
成 績 評 価 方 法	1. 課題レポート: (ア)①骨スケッチ (イ) ②Wynn Kapit (著): カラースケッチ解剖学, 広川書店. を完成して提出. 2. 実技・口頭試問試験 (または筆記試験) 3. 実習態度

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	コースオリエンテーション		専門基礎分野
2	骨学実習	骨学実習 オリエンテーション・講義	1. 解剖学
3	骨学実習	骨のスケッチ 課題	A. 総論
4		①骨スケッチのスケッチブック提出 ②Wynn Kapit (著): カラースケッチ解剖学, 広川書店. 完成して提出.	a. 定義, 目的, 分類 b. 細胞と組織 c. 形態発生
5	肉眼解剖学実習	オリエンテーション	B. 骨格系
6	肉眼解剖学実習	肉眼解剖学実習 (ヒトまたはサルまたはアトラス使用) (詳細はオリエンテーション時に案内する)	a. 骨の構造と分類 b. 関節の構造と分類 c. 各部の骨・靭帯・関節
19			C. 筋系
20	組織学講義	組織学講義	a. 筋の構造と形態, 作用 b. 各部の筋・腱
21	試験	(詳細はオリエンテーション時に案内する)	D. 神経系
22	(実技・口頭試問 筆記等)		a. 中枢神経系 b. 末梢神経系
	献体慰霊祭 (予定)	慰霊祭に参加する	E. 脈管系
			a. 心臓 b. 動脈系 c. 静脈系 d. リンパ系
			F. 内蔵諸器官
			a. 消化器 b. 呼吸器 c. 泌尿・生殖器 d. 内分泌腺
			G. 感覚器
			H. 断層解剖

教 科 書	
参 考 書	「骨学実習の手引き」寺田春水, 藤田恒夫 (南山堂) 「解剖学実習の手引き」寺田春水, 藤田恒夫 (南山堂) 「分担解剖学 I・II・III」森富, 他 (金原出版) 「人体解剖学」藤田恒太郎 (南江堂) 「Gray's Anatomy 39edit」Stanring S (ELSEVIER)

授 業 科 目 名	生 理 学	単 位 認 定 者	塩 崎 秀 一
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識の修得する。
学 習 到 達 目 標	生理学では、解剖学で学んだ正常なからだの構造と形態に基づくそのはたらき（機能）について、両分野を統合したかたちで理解出来るようになることである。
関 連 科 目	解剖学、運動学、内科学
成 績 評 価 方 法	学期末試験、及びレポートなどにより評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準				
			理学療法士				
1	生命とは	細胞・組織・器官	a. 細胞の構造 b. 細胞内小器官の構造				
2	体液、血液	体液の恒常性、血液の成分と機能	a. 体液の電解質				
3			b. 酸塩基平衡				
4			c. 血液の成分とはたらき d. 造血				
5			e. 凝固と線溶				
6			循環	心臓血管系の基本構造と機能、調節	a. 心臓の構造 b. 心臓の機能 c. 血管の構造 d. 動脈系と静脈系 e. 脈拍 f. 血圧 g. リンパの流れ h. 胎児の血液循環		
7	呼吸	呼吸器系基本構造と機能、調整	a. 気道の構造と機能 b. 器官・肺の構造と機能 c. 呼吸中枢 d. 呼吸に影響を与える因子				
8			消化と吸収(消化管)	消化器系基本構造と機能、調整	a. 咀嚼の過程 c. 口腔 d. 咽頭の構造と機能 e. 食道の構造と機能 f. 胃の構造と機能 g. 十二指腸、空腸・回腸の構造と機能 h. 結腸、直腸・肛門の構造と機能		
9					消化と吸収(肝、膵、胆)	消化器系基本構造と機能、調整	a. 膵臓の構造と機能 b. 肝臓と胆嚢の構造と機能
10							泌尿器と生殖器
11	内分泌	ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能	a. ホルモンとは b. ホルモンの作用機序 c. 様々なホルモン				
12			神経	神経系とは/中枢神経系/末梢神経系	a. 神経細胞の生理 b. 神経細胞と情報伝達 c. 中枢神経系を保護する組織 d. 伝達路 k e. 末梢神経		
13					感覚と運動	感覚の一般的性質、主要な感覚器と伝導路 運動器系とは、骨・関節・筋の機能	a. 感覚器 b. 感覚伝導路 c. 骨の構造と機能 d. 筋の構造
14							
15							

教 科 書	「トートラ人体の構造と機能」大野忠雄訳（丸善）
参 考 書	「カラー人体解剖学」フレディック・H. マティーニ著（西村書店）

授 業 科 目 名	運 動 生 理 学	単 位 認 定 者	江 口 勝 彦
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義を中心とする。
科 目 の 目 的	<p>「運動生理学」を表す英語には「Exercise Physiology」と「Work Physiology」と二つがあるが、本講義で取り扱うのは、前者である。</p> <p>「運動生理学」の基礎は、「運動学」と「生理学」である。通常、「生理学」は、安静時を中心とした人体の正常生理学であるのに対し、運動生理学は、運動する（行っている）人体の生理学であるといえる。この分野は、ベインブリッジ「筋運動の生理」(1919)、A.V. ヒルの「ヒトの筋運動」(1927)などが始まりであろうとされているが、その後オストランドやサルティンらが確立してきたものである。本邦においても吉田章信の「運動生理学」(1916)が著され、東京大学の猪飼道夫はこの分野の牽引者として多くの弟子を育て、現在それらの弟子たちが更に多くの後輩を輩出している。</p> <p>理学療法は、英語でPhysical Therapy（主に米国を中心に）、Pysiothrapy（主に英国を中心に）と表されるが、このPhysio-とは、PhysiologyのPhysio-であり、「治療介入により生理学的作用を得るもの」と理解できる。理学療法を学ぶ上で、「生理学」がどれほど重要なものであるか理解できよう。</p> <p>「生理学」の広い領域の中でも理学療法においては、運動の制御に関する「神経生理学」となると、運動の発現や維持に関するこの「運動生理学」は大変重要な領域であり、深い理解が求められる。本講義においては、これから理学療法の専門科目を学ぶに当たって、特に必要になる「筋の運動生理学」「呼吸の運動生理学」「循環の運動生理学」「エネルギー代謝と運動生理学」を中心に、理学療法に関連づけて講義する。既修の基礎医学分野「生理学」と専門分野「理学療法評価学」「理学療法治療学」のかけ橋になることを目指している。</p>
学 習 到 達 目 標	「筋の運動生理学」「呼吸の運動生理学」「循環の運動生理学」「エネルギー代謝と運動生理学」の分野について、基礎事項を理解する。到達度は、専門分野「理学療法評価学」「理学療法治療学」が理解出来るところとする。最低ラインを国家試験出題程度とする。
関 連 科 目	解剖学 生理学 運動学 運動学実習
成 績 評 価 方 法	出欠席および態度・レポート課題・筆記試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	コースオリエンテーション	本講義の目的, 学習到達度, 成績評価方法 講義スケジュール 推薦参考書の紹介 学習方法などについて	
2	運動生理学概論	運動生理学の定義 運動生理学の分類 体力	
3 ～ 5 6	筋の運動生理学	筋の分類と構造 筋線維の種類と特徴 興奮収縮連関 筋収縮とエネルギー供給系 筋力・筋持久力	I-2. 生理学 M. 運動生理 a. 運動における生体の生理学的変化
7 ～ 8	呼吸の運動生理学	呼吸運動と呼吸生理 運動と呼吸	
9 ～ 12	循環の運動生理学	身体運動と心血管反応 心電図	
13 ～ 14	エネルギー代謝と運動生理学	嫌気性代謝と好気性代謝 代謝率 (RMR) と代謝当量 (METS) エネルギー消費 運動負荷試験 持久性トレーニング	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
15	単位認定試験		

教科書	<p>「運動生理学 第3版. リハビリテーション医学全書3-II」石川友衛（医歯薬出版）1998.</p> <ul style="list-style-type: none"> * 指定教科書ではあるが，全ては網羅していない．やや分かりにくい． * 初学者にとっては難しい部分もあるので，他に印刷教材（運動生理学講義ノートA4版，約100頁）も配布する．各自ファイルなどに綴じて製本すること． * 生理学の教科書，参考書，運動学教科書なども適宜参照する事．
参考書	<p><入門書></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「入門運動生理学（第2版）」勝田 茂 編著（杏林書院）2001. ・「運動生理学概論」浅野勝己 編著（杏林書院）2002. ・「イラスト 運動生理学」浅山正己，彼末一之，三木健寿 編著（東京教学社）2000. ・「運動生理学入門」猪飼道夫（杏林書院）1979. -古典的名著！ ・「運動の生理学 -骨から神経まで-」神野耕太郎（南山堂）2003. -呼吸・循環が抜けている． <p><中 堅></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「体力トレーニング -運動生理学的基礎と応用-」宮村実晴，矢部京之助編集（真興交易医書出版部）1986. ・「最新運動生理学 -身体パフォーマンスの科学的基礎-」宮村実晴 編集（真興交易医書出版部）1986. ・「-運動・生理・生化学・栄養- 図説運動の仕組みと応用（第2版）」中野昭一 編集（医歯薬出版）1996. <p><詳解・上級></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新 運動生理学（上・下）」宮村実晴 編集（真興交易医書出版部）2001. -最先端の研究成果を含む <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的な生理学書（医科生理学展望；丸善，真島の生理学；文光堂など） ・大修館書店から出ている運動生理学書など． ・NAP から出ている運動生理学書など．

授 業 科 目 名	生 理 学 実 習	単 位 認 定 者	塩 崎 秀 一
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (2 2 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	実習、講義
科 目 の 目 的	主要臓器の機能および、運動器、感覚器とその伝導路を確認・理解する
学 習 到 達 目 標	心肺機能の把握、測定器具（心電図計、スパイロメーターなど）の取扱、データの判読 動物を使い、神経路とその働きを理解する
関 連 科 目	生理学、解剖学、運動学
成 績 評 価 方 法	出席とレポート、期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1 2 3 4	ガイダンス 伝導路	生理学実習をするにあたってに注意 運動の伝導路、感覚伝導路	
5 6 7 8	心電図の記録と解析 1	心電図の基本原理、測定の基礎を学び、実際に測定する。解析の基礎を学ぶ。	
9 10 11 12	心電図の記録と解析 2	心電図の測定、解析の基礎をふまえ、さらに高度な解析を試みる。	
13 14 15 16	神経筋標本の作製	神経筋標本を作製し、刺激の大きさや頻度と筋収縮様式との関連を理解する。心筋との比較から、骨格筋と心筋の違いを復習する。	
17 18 19 20	神経伝導速度の測定	カエルの坐骨神経を利用して、神経の基本的な性質を理解する。	
21 22 23	呼吸機能の測定	スパイロメーターを用いて、呼吸機能の測定と解析を行う。フローボリューム曲線の解析も行う。	

教 科 書	「リープマン神経解剖学」山内昭雄訳（メディカルサイエンスインターナショナル社）
参 考 書	「心電図読み方ガイド」群馬県立心臓血管センター（メヂカルフレンド社）

授 業 科 目 名	生 化 学	単 位 認 定 者	澤 田 只 夫
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	パワーポイント／ビデオ、プリントを使用
科 目 の 目 的	理学療法の対象となる人間の体を構成するミクロとマクロの世界（生命と物質との繋がり）を栄養学とを織り交ぜた総合的立場から、「根拠に基づく理学療法（EBPT）」をめざし、基本的で、かつ臨床に役立つ基礎知識を修得する。そして、「人間」の理解を深めることをねらいとする。
学 習 到 達 目 標	生体分子を構成している化学物質にはどのようなものがあるのかを学び、生体内で起こっている生物化学的反応（特に、運動と筋肉・骨、そしてエネルギー代謝）が理解でき、また、生命維持の機構や病気との関連も理解できるようになることである。
関 連 科 目	栄養学 基礎理学療法学（バイタルサイン） 臨床検査学（検体分析値の理解） 病理学 生理学 内科学 解剖学
成 績 評 価 方 法	中間・学期末試験（70%）、小テスト及びレポート（30%）などにより評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	生体分子と細胞	生体の成り立ち／個体、器官、組織、細胞／細胞内小器官の機能／細胞分画法／生体を構成する物質／代謝—生体で起きている化学反応	
2	タンパク質の性質	タンパク質の分類／タンパク質を構成しているアミノ酸はL-α-アミノ酸である／タンパク質を構成しているアミノ酸の種類／アミノ酸は中性の水溶液中ではイオン化している／タンパク質の高次構造／タンパク質は変性し、機能を失う／血漿タンパク質	
3			
4			
5	生体内における糖質の代謝	糖とは何か／糖の分類／糖は我々の体にとって重要なエネルギー源である／グルコースとグリコーゲンの合成／血糖の調節／糖尿病	
6			
7	生体内における脂質の代謝	脂質の種類と化学的性質／脂質の代謝／リポタンパク質と脂質代謝異常	
8			
9		* <u>Midterm Exam</u> *	
10	生体内におけるアミノ酸およびタンパク質の代謝	脱アミノ反応／脱炭酸反応／尿素回路／糖新生／エネルギー代謝／分枝鎖アミノ酸の代謝／含硫アミノ酸の代謝／オキシアミノ酸の代謝／芳香族アミノ酸の代謝／アミノ酸の先天性代謝異常症／主な疾患と血漿アミノ酸・タンパク質の変動	
11			
12	生体内における核酸の役割	核酸の所在／2種類の核酸と構造核酸はコピーされる／タンパク質を作るための核酸／いらなくなった核酸の処分／核酸の仲間／遺伝病の犯人は？／	
13			
14		遺伝子操作のもたらす世界	
15		* <u>Final Exam</u> *	

教 科 書	「ナーシング・グラフィカ② 臨床生化学」三井和浩（メディカ出版）
参 考 書	

授 業 科 目 名	運 動 学	単 位 認 定 者	高 橋 正 明
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人の身体運動を機能－構造の視点から分析するのに必要となる基本的な知識や概念を学び、自分自身の関節運動を説明することができる。
学 習 到 達 目 標	1. 関節運動の原則について説明できる。 2. 体幹・肢節の関節運動を機能－構造的見方で説明できる。 3. 骨、靭帯、筋、神経組織の関節運動における役割を説明できる。 4. 関節の一般的構造物を可動性と安定性の要素で分類できる。
関 連 科 目	関連し合う科目 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 表面解剖学と触診法 生理学 この科目が基礎となる科目 理学療法評価学 運動器系理学療法学 神経系理学療法学 臨床運動学 日常生活活動学 他
成 績 評 価 方 法	機能解剖に関する小テスト (クイズ) --60% 全体についての定期試験 --40%

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	リオエンテーション	運動学とは？ 関節運動 英語専門用語	I-3. 運動学 A. 総論 a. 定義、目的 b. 力の基礎 c. 運動器の構造と機能 d. 運動の中樞神経機構 B. 四肢と体幹の運動 a. 顔面・頭部の運動 b. 上肢帯と上肢の運動 c. 下肢帯と下肢の運動 d. 体幹の運動 e. 呼吸運動
2	および運動の原則	運動の法則 軸旋運動 連鎖 生体力学 てこ	
3	〃	筋の収縮 共同運動 バランス 支持基底面と重心	
4	骨・関節・靭帯	形態と機能 安定性と可動性	
5	機能解剖足部	足関節の形態と運動	
6	〃	足部・の形態と機能	
7	〃	筋の働き	
8	〃	アーチ構造	
9	機能解剖膝関節	膝関節の形態と機能 (足部・足関節クイズ)	
10	〃	半月・靭帯の構造と機能	
11	〃	筋の働き	
12	〃	立位での役割	
13	機能解剖股関節	股関節の形態と機能 (膝関節クイズ)	
14	〃	股関節の力学	
15	〃	股関節の力学	
16	〃	筋の働き	
17	機能解剖体幹	脊柱の形態と機能 (股関節クイズ)	
18	〃	筋の働き	
19	〃	呼吸運動	
20	〃		
21	機能解剖肩甲帯	肩甲帯の運動 (体幹クイズ)	
22	〃	肩甲帯を構成する関節の構造と機能	
23	〃	靭帯	
24	〃	筋の働き	
25	機能解剖肘関節	肘関節の形態と運動 (肩甲帯クイズ)	
26	〃	筋の働き	
27	機能解剖手・指関節	手関節の携帯と機能 (肘関節クイズ)	
28	〃	手指の携帯と機能	
29	〃	筋の働き	
30	〃	手の役割	
	定期試験	手関節・手指関節クイズ 運動学総論の試験	

教 科 書	「基礎運動学 第6班」中村隆一、他 (医師薬出版)
参 考 書	「関節の生理学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」Kapandji LA 著 荻島秀夫訳 (医師薬出版) 「Kinesiology」Oatis CA 著 (Lippincott Williams & Wilkins)

授 業 科 目 名	運 動 学 実 習	単 位 認 定 者	高 橋 正 明 ・ 江 口 勝 彦
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (2 2 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習、実習
科 目 の 目 的	運動学実習は3部からなる。第1部は、運動の発現やコントロールに重要な感覚や中枢神経の運動との関わり、運動学で学習した関節運動の応用編である各種姿勢と動作について実習を通して学ぶ。第2部は身体重心の位置や重心動揺、姿勢保持時の各肢節間のアライメントの測定など自分自身を対象とした測定実習を行い、基本的姿勢と動作について力学的理解を深める。第3部は運動や動作を解析する各種手法についてグループで実習し、運動学における分析法を修得する。
学 習 到 達 目 標	<p>第1部 講義と演習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人の姿勢とバランスについて力学および中枢神経系の機能の側面から説明できる。 2. 基本的動作を可能にする力学的原理および反射・反応の役割について説明できる。 3. 人の正常歩行について、歩行分析の歴史、正常歩行の運動学的要素、筋活動、運動力学的要素を説明できる。 4. 動作分析に良く用いられる機器あるいは手法を列挙して説明できる。 <p>第2部 個人実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 二つの方法での身体の重心位置を推定できる。 2. 立位時の圧中心移動を計測し、解釈できる。 3. 立位における身体肢節のアライメントを評価できる。 4. 身体の形態測定ができる。 <p>第3部 グループ実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 筋のトルク値を計測し、解釈できる。 2. 筋電図法を用いた動作分析ができる。 3. 画像を用いた動作分析ができる。 4. スキル獲得過程を動作-時間分析できる。
関 連 科 目	<p>関連し合う科目</p> <ul style="list-style-type: none"> - 運動学、臨床運動学 <p>この科目が基礎となる科目</p> <ul style="list-style-type: none"> - 全専門科目
成 績 評 価 方 法	定期試験、演習への参加度、実習レポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	リエンテーション、筋力	ガイダンス、緊張力、静止張力、活動張力、粘弾性、	I-3. 運動学 C. 運動分析・動作分析 D. 姿勢 E. 歩行 F. 運動制御と運動学習
2	筋力	最大筋力、心理学的限界、生理学的限界、萎縮と肥大	
3	運動と中枢神経機構	反射、反応、姿勢反射と立ち直り反応、	
4	〃	姿勢保持と平衡反応、随意運動	
5	バランスと感覚	足関節の戦略と股関節の戦略、固有感覚、前庭覚	
6	姿勢と基本動作	正常な姿勢、寝返り、起きあがり、立位動作	
7	正常歩行動作	歩行決定要因、歩行周期、歩行の相、	
8	〃	筋活動、力学的分析	
9	バランス (演習)	足関節と股関節の戦略、固有感覚、前庭覚外乱の体験	
10	基本動作 (演習)	観察による基本動作分析法	
11	動作分析法	動作分析に必要な機器	
12	個人実習	身体の重心位置を推定、形態計測	
13	〃	立位時の圧中心移動計測	
14	〃	立位における身体肢節のアライメント	
15	グループ実習	グループでローテーションにより下記の実習をする	
16	〃	筋のトルク値を計測	
17	〃	筋電図法を用いた動作分析	
18	〃	画像を用いた動作分析	
19	〃	スキル獲得過程の動作-時間	
20	〃		
21	〃		
22	〃		
23	〃		

教 科 書	「基礎運動学 第6班」中村隆一、他 (医師薬出版)
参 考 書	

授 業 科 目 名	人 間 発 達 学	単 位 認 定 者	青 山 正 征
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	教科書に沿って指導を進め、適宜 OHP ないし VIDEO を用いる。一方、学生に授業参加の意識を植え付けるため、小レポート課題を出し発表させる。なお、夏季休暇時「自分史」を宿題とする。
科 目 の 目 的	ひとの一生を身体的、精神的、情緒的、社会的発達的面から概観し、背景にある理論を学ぶ。
学 習 到 達 目 標	ひとの生涯発達を把握し、背景にある理論を理解し、ひとり一人の全人的認識を高める。
関 連 科 目	小児科学 I, II 発達心理学 心理学他
成 績 評 価 方 法	授業における態度（とくに出席について）および試験成績により評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	人間発達とは (1)	発達概要	a. 定義、目的 b. 発達理論 c. 発達段階と発達課題 d. 身体発達 e. 精神発達 f. 心理社会的発達 <各期における発達> a. 小児期 b. 青年期 c. 成人期 d. 老年期
2	人間発達とは (2)	発達理論と研究方法	
3	出生前発達と出生		
4	乳児・幼児前期 (1)	身体的発達	
5	乳児・幼児前期 (2)	認知的発達	
6	乳児・幼児前期 (3)	情緒的・社会的発達	
7	幼児期後期 (1)	身体的発達と認知的発達	
8	幼児期後期 (2)	情緒的・社会的発達と乳幼児期の発達評価	
9	学童期 (1)	身体的発達と認知的発達	
10	学童期 (2)	情緒的・社会的発達	
11	障害児の発達と支援		
12	青年期		
13	成人期		
14	高齢期		
15	テスト		

教 科 書	「生涯人間発達学」上田礼子著（三輪書店）2001.
参 考 書	「Newman & Newman “Development Through Life” 7 th ed.」Wadsworth 1999. 「発達心理学辞典」岡本他監修（ミネルヴァ書房）2002. 「臨床心理学辞典」恩田・伊藤編（八千代出版）1999. 「認知心理学事典」アイゼング編（新曜者）2002. 「心理学辞典」中島他編（有斐閣）2002.

授 業 科 目 名	発 達 心 理 学	単 位 認 定 者	三 國 牧 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人間を理解する基礎として、各発達段階における知的、心理的、社会的発達、人格の発達を理解する事を目的とする。
学 習 到 達 目 標	①各発達段階の知覚、感情と情動の発達、認知の発達、パーソナリティと自我形成、行動の発達の变化について習得する。
関 連 科 目	心理学 老年心理学 人間発達学
成 績 評 価 方 法	定期試験に日常点を加味する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	発達心理学とは	発達心理学の概念の理解	I 人体の構造と機能及び心身の発達 4. 人間発達学 A. 総論 f. 心理社会的発達 B. 各期における発達 a. 少年期 b. 青年期 c. 成人期 d. 老年期
2	乳児期の発達と危機管理	気質という概念の理解と親子関係について	
3	幼児初期の発達と危機管理	1歳半から3歳半～4歳までの幼児の身体的・認知的発達と自我の発達について	
4	幼児期の発達と危機管理	就学前の子ども達の発達の特徴と危機の種類とその管理について	
5	学童期の発達と危機管理	学童期の発達課題、社会的発達について	
6	思春期の発達と危機管理	思春期の身体的特徴と危機管理について	
7	青年期の発達と危機管理	青年期の発達の特徴。性に関する問題。	
8	青年後期の発達と危機管理	青年後期の発達の特徴、特に自分探しに焦点を当てて考える	
9	若い大人のライフタスクと危機管理	ライフタスクの考え方や性差における社会的役割など	
10	壮年期のライフタスクと危機管理	壮年期の心理的变化の特徴、家族との関わり・仕事との関わりの変化について	
11	高齢期のライフタスクと危機管理	心身の変化、死のとらえ方など	
12	生命の循環とペアレンティング①	世代連鎖・生命の循環とはについて考える。	
13	生命の循環とペアレンティング②	母性論・父性論について	
14	復習	発達心理学を人生の流れを通して再確認する	
15	定期試験	筆記	

教 科 書	「ナースのための心理学3 パーソナリティ発達論」岡堂哲雄編 (金子書房)
参 考 書	

授 業 科 目 名	歯 科 保 健	単 位 認 定 者	浅 見 知 市 郎
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	口腔は簡単に観察することのできる内蔵であり、全身の状態を反映することが多い、ということを看護学生に認識させ、患者の口腔を観察する習慣を身につけ、正しい口腔ケアを行うことができるようにする。
学 習 到 達 目 標	解剖生理学的な口腔の特性、臨床的な事項を習得する。また、母子歯科保健、学校歯科保健、地域歯科保健、老人歯科保健の現場で活躍できる知識を習得する。
関 連 科 目	解剖学 生理学 病理学
成 績 評 価 方 法	試験で評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	歯	歯に関する基礎知識	
2	歯周組織	歯周組織に関する基礎知識	
3	歯科疾患 1	う蝕について	
4	歯科疾患 2	う蝕の治療について	
5	歯科疾患 3	歯周病について	
6	歯科疾患 4	歯周病の治療について	
7	歯科疾患 5	歯列、咬合について	
8	歯科疾患 6	口腔粘膜疾患	
9	歯科疾患 7	唾液腺疾患	
10	歯科疾患 8	口腔ガン	
11	歯科保健論 1	母子歯科保健	
12	歯科保健論 2	学校歯科保健	
13	歯科保健論 3	地域歯科保健	
14	歯科保健論 4	老人歯科保健	
15	試験		

教 科 書	「系統看護学講座専門分野 19 成人看護学 15 歯・口腔疾患患者の看護第 10 版」(医学書院)
参 考 書	

授 業 科 目 名	栄 養 学 (含 食 品 学)	単 位 認 定 者	志 田 俊 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義を中心とするが、その進度に応じ課題を提示し自己学習、調査などを実施し理論としての「学」だけでなく実践活動を伴った学習が可能であるような指導方法を実施する。
科 目 の 目 的	「食は命の基本」とあるという哲学のもとに食品すなわち栄養素と人体の関連性を充分理解させ健康状態から逸脱している人々に食生活の指導をいかに行うかということを考えるキッカケをつくり、更に将来NSTのメンバーとして必要な基本知識を養成する事を目的とする。
学 習 到 達 目 標	① 講義内容の理解度を判定するための筆頭試験 ② 提出物 100%
関 連 科 目	解剖学 生化学 生理学 病理学
成 績 評 価 方 法	定期試験 提示された課題についてのレポート 出席状況を総合的に評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			理学療法士	
1	栄養学の目的 1	・ 人は何のために食べるか ・ 食べ方には段階がある		
2	栄養素の科学 2	・ 栄養素の種類と体内での主たる役割		
3		・ 炭水化物について ・ 単糖類 二糖類 多糖類の構造と解糖作用について		
4		・ 脂質の種類と体内での主たる役割 単純脂質 複合脂質 ステロール化合物 脂肪酸の種類と構造		
5		・ 蛋白質の種類と体内での主たる役割 単純蛋白質 複合蛋白質 アミノ酸の種類と性質		
6		・ ビタミンの種類と体内での主たる役割 水溶性ビタミン 脂溶性ビタミンの分類と性質 生理作用について課題提出		
7		・ 課題について自己学習のじかんを取る (食品成分表を資料としノートに整理し試験範囲に入れる)		
8		・ ミネラルの種類と体内での主たる役割 体液バランスの講義の後 自己学習		
9		・ ミネラルについての自己学習時間とする		
10		食品と献立 10		・ 栄養素と食品群について 食品群の考え方 三群について 四群について 六群について
11				・ 栄養摂取の実践 ・ 献立作成 ・ 献立作成の条件 ・ 資料の準備
12	・ 献立作成用紙配布 各自献立を考える ・ 献立作成 栄養計算			
13	・ 栄養計算調整			
14	・ 栄養計算調整			
15	15	・ 献立作成の総括・反省		

教 科 書	「五訂増補 食品成分表」(女子栄養大学出版部 出版)
参 考 書	

授 業 科 目 名	医 療 概 論	単 位 認 定 者	
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	医療分野に関する各講義に先立ち、幅広い知識を身につけ、今後、専門的分野を学習する上での一助とする。
学 習 到 達 目 標	最先端の医療を含めて、基本的医学知識を幅広く学習する。
関 連 科 目	老年医学 病理学等
成 績 評 価 方 法	定期試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1		本年度開講せず	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

教 科 書	「医学概論」日野原重明著（医学書院）.
参 考 書	

授 業 科 目 名	病 理 学	単 位 認 定 者	武 田 淳 史
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	解剖学、生理学を基礎とし、正常な人体の構造と機能を学ぶ。この知識を基に、正常な人体に生じた、各種疾患について、病理形態学的立場から、その疾患について理解を深める事の出来る目を養うことを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 正常な細胞の構造、機能についての理解。 2. 正常解剖学、生理学を基礎とする病変についての細胞、組織学的理解。 3. 各種疾患の病因、病態生理、診断、治療についての理解。
関 連 科 目	解剖学（総論、各論） 生理学 生化学 内科学
成 績 評 価 方 法	筆記試験（中間試験50点＋本試験50点）

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	病理学とは	・ 病理学について・細胞の構造と働き・代謝異常	II-1. 病理学概論 A. 病因論 a 内因と外因、b 細胞組織の病理学的変化 B. 退行性病変と代謝異常 a 萎縮、変性、壊死、b 代謝異常 C. 進行性病変 a 肥大と再生、b 総称治療と異物処理 D. 循環障害 E 炎症と免疫 a 炎症、b 感染と免疫 c アレルギー F 腫瘍 G. 先天異常 a 遺伝、b 奇形 H. 老化 I -1. 人体の構造と機能 A 総論. B. 骨格系 C. 筋系 D. 神経系 E. 呼吸器系 F. 循環器系 G. 感覚器系 H. 運動器系
2	修復と再生	・ 組織の修復と再生・老化	
3	循環障害	・ 充血、うっ血、虚血、梗塞	
4	炎症と免疫	・ 炎症・免疫・アレルギー・感染症	
5	腫瘍	・ 腫瘍の分類・転移・良性、悪性腫瘍	
6	遺伝と先天異常	・ 遺伝病・染色体異常・先天異常・遺伝子治療	
7	循環器各論	・ 血管と心臓の病気	
8	呼吸器各論	・ 肺の構造と働き。炎症・循環障害・閉塞性、拘束性肺疾患・肺癌	
9	消化器各論	・ 食道、胃、腸の疾患・肝、胆、膵疾患	
10	造血期各論	・ 赤血球、白血球の異常・リンパ節の異常	
11	泌尿器各論	・ 腎臓、膀胱の病気	
12	生殖器各論	・ 女性生殖器・男性生殖器の病気	
13	神経系各論	・ 外傷・循環障害・感染症・変性疾患・腫瘍	
14	内分泌系各論	・ 視床下部・下垂体・甲状腺・副腎・膵臓疾患	
15	運動器系各論	・ 骨、軟骨、筋肉疾患	

教 科 書	「シンプル病理学（第四版）」笹野公伸、岡野保典、石倉浩 著（南江堂）
参 考 書	「系統看護学講座 専門4 病理学」坂本 惇彦 著（医学書院）

授 業 科 目 名	薬 理 学	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	1 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	医療の中で投薬と注射の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。1) 薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。2) 薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用に関しても学ぶ。3) 薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。4) 薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。
学 習 到 達 目 標	薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適用に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、理学療法に必要とされるレベルに到達することを目標とする。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1 2	薬理学とは 薬物動態	薬理学の基本知識. 薬物治療に影響を与える因子. 投与経路と薬の吸収. 分布, 代謝, 排泄.	
3 4	麻酔薬と中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬	全身麻酔薬. 局所麻酔薬. 中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬. 麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬.	
5 6	向精神薬と抗痙攣薬 筋弛緩薬と抗パーキンソン薬	向精神薬. 抗痙攣薬 (抗てんかん薬). 筋弛緩薬. 抗パーキンソン薬.	
7 8	自律神経薬. オータコイド	自律神経の基礎知識. コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬 (付: 胃酸分泌抑制薬). アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬. オータコイドの種類とその作用. プロスタグランディンの臨床応用.	
9 10	強心薬. 抗狭心症薬 と抗不整脈薬.	強心薬 (ジギタリス) の投与方法. ジギタリスの副作用とその対策. 抗狭心症薬. 抗不整脈薬.	
11 12	利尿薬. 降圧薬.	利尿薬. 利尿薬の臨床的応用. 降圧薬. 抗動脈硬化薬.	
13 14	消化器病薬・駆虫薬 内分泌薬	消化器病薬. 駆虫薬. 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬. 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬.	
15 16	血液病薬と抗癌薬	貧血の薬. 止血薬. 抗血栓療法薬. 開発と化学療法. 副作用と組み合わせ.	
17 18	化学療法薬と免疫療法薬	化学療法薬. 抗ウイルス剤. 免疫について. 免疫療法.	
19 20	消毒薬と呼吸器病薬	滅菌・消毒法. 消毒薬の濃度と殺菌速度. 呼吸器病薬. 抗結核薬.	
21 22	皮膚疾患に用いられる薬剤.	皮膚疾患に用いられる薬剤. 造影剤. 放射性医薬品.	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
23 24	放射線診断・治療薬 ショックに用いられる薬剤. 点眼薬. 輸液	ショックの原因別分類. ショックの対応と薬剤. 点眼薬. 輸液の目的. 輸液剤.	
25 26	毒物および解毒剤 代謝賦活薬. ビタミン剤	中毒の状態. 急性中毒に対する処置. 解毒剤. 排泄と吸着. 代謝賦活薬・ビタミン剤	
27 28	小児・妊婦・老年者 に対する薬物療法. 嗜好品の薬理と薬物相互作用	小児の薬物療法. 妊婦の薬物療法. 老年者の薬物療法. 嗜好品の薬理. 薬物相互作用.	
29 30	薬剤の安定性: 保存 および混合の問題点. 試験.	薬剤の保存. 薬剤の混合、配合変化 (配合禁忌).	

教科書	
参考書	「新版看護学全書6 疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学」(メヂカルフレンド社)

授 業 科 目 名	公 衆 衛 生 学	単 位 認 定 者	石 館 敬 三
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	健康及び公衆衛生の基礎的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。
学 習 到 達 目 標	①生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 ②公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 ③公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。
関 連 科 目	生命倫理 環境論 健康管理論 地域社会学 情報学 免疫、感染症学
成 績 評 価 方 法	定期試験 出席状況 研究発表 等

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	公衆衛生の理解	健康の概念の変遷、公衆衛生の概念	
2	人口と公衆衛生	世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行 年齢3区分別人口の割合	
3	環境と公衆衛生	人間と生活環境、環境行政のあゆみ、地球環境問題	
4	同 上	大気汚染の状況、公害健康被害補償、環境基準	
5	食と公衆衛生	食中毒の発生状況、食中毒の種類	
6	国民の健康と保健統計	健康指標、20世紀100年の変化	
7	同 上	年齢調整死亡率の意義	
8	疫病の疫学と予防	疫学概念、疫学調査方法、因果関係推論、 スクリーニング	
9	同 上	感染症の疫学、新感染症予防法	
10	同 上	結核対策、HIV 対策	
11	生活習慣病対策	がんの予防、その他生活習慣病予防	
12	公衆衛生活動 例	精神保健対策、介護保険制度	
13	同上	母子保健、老人保健、歯科保健、難病対策	
14	保健・医療行政	地域保健法、医療法改正の動き、地域医療連携 社会保障制度、国民医療費	
15	課題研究発表	指定課題による研究発表	

教 科 書	
参 考 書	

授業科目名	画像診断学	単位認定者	遠藤啓吾
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義、病院見学
科目の目的	多くの病気の正確な診断に、画像診断は欠かせないものとなっている。X線、CT、MRI、超音波検査(US)、核医学(SPECT、PET)など多くの画像診断法が開発され、発展している。画像により正常解剖の理解が深まるし、画像検査により病気の発生とともに、解剖学的異常、生体内の変化を目で見ることができるようになった。本科目を学習することにより正常解剖を分かりやすく理解するとともに、実際に病気の診断に画像診断がどのように利用されているかを知ることを目的とする。
学習到達目標	1. X線、CT、MRI、超音波検査(US)、核医学検査(SPECT)・PETの原理を習得する。 2. 正常解剖画像、代表的な病気の典型的な画像を理解する。 3. 正確な病気の診断に画像診断がどのように利用されているか、その役割を理解する。
関連科目	関連し合う教養科目—情報処理、生物学基礎、化学基礎、物理学基礎 この科目が基盤となる専門基礎科目—解剖学Ⅰ・Ⅱ、生物学、生化学、病理学、薬理学、内科学、外科学、整形外科学Ⅰ・Ⅱ、神経内科学Ⅰ・Ⅱ、脳神経外科学、小児科学Ⅰ・Ⅱ、臨床検査学 この科目が基盤となる専門科目—運動器系理学療法評価学、神経系理学療法評価学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価学、物理療法学、スポーツ障害・障害理学療法学
成績評価方法	定期試験に平常点を加味して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	画像診断総論	画像診断の種類 画像診断の役割 それぞれの長所と限界	専門基礎分野 Ⅰ. 人体の構造と機能及び心身の発達
2	X線検査、正常解剖画像	X線診断の原理、造影剤、マンモグラフィ	1. 解剖学 A. 骨格系 a) 骨の構造と分類 b) 関節の構造と分類 c) 各部の骨・靭帯・関節
3	エックス線CT	CTの原理、CTの正常解剖画像、CTの臨床的有用性	B. 神経系 a) 中枢神経系
4	核医学・PET	放射性同位元素(RI)とは、機能画像、SPECT、PETの原理と臨床応用	C. 脈管系 a) 心臓 b) 動脈系 c) 静脈系
5	超音波検査(US)、インターベンショナルラジオロジー(IVR)	USの原理、USの長所と臨床的有用性。IVRとは、IVRの有用性	D. 内臓諸器官 a) 消化器 b) 呼吸器 c) 泌尿・生殖器 d) 内分泌腺
6	MRI	MRIの原理、MRIの臨床的有用性、MRIの正常解剖像	E. 感覚器
7	病院見学(群馬大学附属病院)	群馬大学医学部附属病院を見学。CT、MRI、核医学、PET、放射線治療の現場を知る。	F. 体表解剖 G. 断層解剖
8	上記と同じ	上記と同じ	a) 中枢神経系 b) 筋・骨格・末梢神経系
9	脳・脊髄	脳血管障害、脳腫瘍、認知症(痴呆) 椎間板ヘルニアの画像診断	Ⅱ. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 1. 臨床医学大要(概論)
10	骨、関節、筋肉	骨折、骨・軟部腫瘍、靭帯損傷の画像診断	A. 一般臨床医学 a) 画像検査
11	肺呼吸器疾患、乳房	肺癌、結核、肺炎、呼吸器不全の代表的画像とその診断法	B. 整形外科学 a) 骨関節の構造と生理 b) 整形外科的検査
12	心臓疾患	心筋梗塞、心不全、動脈硬化の代表的画像、診断法	C. 臨床神経学 a) 脳・神経の構造と生理 b) 神経学的症候と診断
13	腹部Ⅰ 胃・腸	食道、胃、大腸など消化管疾患の画像診断	c) 脳血管障害 d) 外傷性脳損傷 e) 脱髄疾患・変性疾患 f) 脊髄疾患
14	腹部Ⅱ 肝・胆・膵・腎臓	肝炎、肝硬変、肝癌、腎不全、尿路疾患の画像診断	専門分野 Ⅱ. 理学療法評価学
15	定期試験	筆記試験	2. 基本的評価法 A. 評価の過程と方法 1) 呼吸・循環・代謝機能検査 3. 傷害別評価法 A. 傷害領域の評価法 a) 整形外科領域 b) 神経内科領域 c) 脳外科領域 d) 小児科領域 e) 内科領域 f) 外科領域 g) 産科領域 h) スポーツ傷害と外傷 i) 口腔・嚥下機能

教科書	プリントによる
参考書	「放射線画像医学 医用放射線科学講座7」稲本一夫 別府慎太郎 編(医歯薬出版) 「リハビリテーション診断学(下) リハビリテーション医学全書Ⅱ-3」千野直一 編(医歯薬出版) 「CT/MRI 画像解剖ポケットアトラス①頭部・頸部・脊柱・関節」町田徹 監訳(メディカル・サイエンス・インターナショナル) 「CT/MRI 画像解剖ポケットアトラス②胸部・腹部・骨盤」町田徹 監訳(メディカル・サイエンス・インターナショナル) 「レントゲン画像解剖ポケットアトラス」町田徹 監訳(メディカル・サイエンス・インターナショナル)

授 業 科 目 名	内 科 学	単 位 認 定 者	武 田 淳 史
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	臨床医学の中で内科学は、すべての疾患を知る上で重要な学問である。特に、疾患の病態生理、診断、治療をしっかりと学ぶ事は、臨床の現場で患者さんを十分に理解する上で、重要である。
学 習 到 達 目 標	疾病の病態生理、診断、治療を一連の流れの中で理解する力を養う。
関 連 科 目	解剖学、病理学、生理学
成 績 評 価 方 法	中間試験50点満点と本試験50点満点の合計にて評価

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	総論、	症候学、診断学、治療学総論	臨床医学大要 1. 内科学 A 症候学と感染症 B 診断学 C 治療学総論 D 感染症 E 膠原病、アレルギー F 呼吸器疾患 G 循環器疾患 H 消化器疾患 I 代謝内分泌疾患 J 血液疾患 K 腎疾患 L 中毒、環境要因
2	感染症	細菌、ウイルスによる疾患	
3	膠原病、アレルギー	アレルギー、自己免疫疾患の理解	
4	呼吸器疾患 (1)	呼吸器の基礎と感染症	
5	呼吸器疾患 (2)	肺がんと治療最前線	
6	循環器疾患 (1)	循環器の基礎、先天性心疾患	
7	循環器疾患 (2)	後天性心疾患、心臓外科	
8	消化器疾患 (1)	消化管の基礎、胃 12 指腸、小腸、大腸疾患	
9	消化器疾患 (2)	肝臓、胆嚢、膵臓疾患	
10	代謝内分泌疾患 (1)	下垂体、甲状腺、副腎	
11	代謝内分泌疾患 (2)	糖尿病をはじめとする生活習慣病	
12	血液疾患	貧血、白血病	
13	腎泌尿器疾患 (1)	腎泌尿器の解剖、総論	
14	腎泌尿器疾患 (2)	腎臓、膀胱を中心とする各論	
15	中毒環境要因	中毒一般、まとめ	

教 科 書	「内科サブノート」瀧野辰郎 著 他 (南江堂)
参 考 書	「必修 内科学」永野 允 著 他 (南江堂)

授 業 科 目 名	外 科 学	単 位 認 定 者	近 藤 敏
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講 義
科 目 の 目 的	外科学に関する基本的事項を学習し、術後患者のリハビリテーションに役立たせる。
学 習 到 達 目 標	(1) 外科的疾患の診断・治療・術後合併症を理解する。 (2) 術後患者のリハビリの要点を身につけ、クリニカルパスの作成に参加できる。
関 連 科 目	内科学、整形外科、脳神経外科学、老年医学、感染症学、緩和医療学
成 績 評 価 方 法	筆記試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	外 科 学 總 論	外科的侵襲の病態生理	II. 疾病の成り立ち及び回復の促進 3. 臨床医学大要 A. 一般臨床医学 g) 外科療法 (滅菌法を含む) h) 救急・蘇生・ICU・CCU i) 外科 (腹部・心血管・胸部) 疾患 p) 移植医療
2	同 上	外科的診断法、基本的外科処置法	
3	同 上	基本的外科手術の手技および術式	
4	外 科 学 各 論	救急外科、心肺蘇生法、呼吸管理	
5	同 上	創傷外科、熱傷の外科	
6	同 上	外科的感染症、外科と免疫	
7	同 上	腫瘍学	
8	同 上	臓器移植、人工臓器、更生医療	
9	同 上	術後管理と術後合併症、リスクマネジメント	
10	同 上	頭頸部外科	
11	同 上	呼吸器外科、乳腺外科、縦隔の外科	
12	同 上	心臓血管外科	
13	同 上	消化器外科	
14	同 上	老人外科と小児外科、その他の外科	
15	試 験	筆記試験	

教 科 書	「標準外科学(10版)」小柳仁 監修 (医学書院)
参 考 書	「外科学用語集」日本外科学会 編 (金原出版)

授業科目名	整形外科学 I	単位認定者	橋本俊英
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	理学療法に必要な筋骨格系の基礎知識、および整形外科疾患の特性と対応について、テキストと資料を用いて解説する。
科目の目的	整形外科疾患を有する患者の理学療法を行う上で必要な知識を身につける。
学習到達目標	1. 骨・関節・筋肉および神経・血管の構造と機能を理解する。 2. 整形外科疾患の病態、症状、治療法、および理学療法を行う際の合併症とその対策について理解する。 3. 整形外科疾患の理学療法と、患者をとりまく家族・地域・社会との関連を理解する。
関連科目	臨床心理学、老年心理学、生命倫理、病理・解剖学、運動生理学、老年医学、救急医療、スポーツ医学、義肢・装具学
成績評価方法	定期試験に授業参加態度を加味して評価する。(積極的な授業参加・質問を期待する)

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	整形外科総論 1	整形外科の基礎知識(骨・関節・筋肉・神経・血管の基本構造と機能)	臨床医学大要(概論)1---整形外科学 a. 骨関節の構造と生理 b. 骨関節の病態生理 c. 整形外科的症候と診断 d. 整形外科的検査法 e. 保存的療法(牽引療法を含む) f. 手術的療法(一般) g. 骨関節の感染症 h. 関節リウマチとその類縁疾患 i. 変形性関節症 j. 末梢循環障害 k. 阻血性壊死 l. 先天異常および系統疾患 m. 骨・軟部腫瘍 n. 代謝性疾患 o. 外傷と骨折 p. 脊髄・脊椎疾患および損傷 q. 末梢神経損傷(腕神経叢を含む) r. スポーツ障害と外傷(スポーツ医学)
2	整形外科総論 2	運動器の評価および検査法、整形外科疾患の治療法	
3	整形外科疾病論 1	炎症性疾患	
4	整形外科疾病論 2	代謝・内分泌性疾患、退行性疾患	
5	整形外科疾病論 3	先天性骨・関節性疾患	
6	整形外科疾病論 4	脊椎の疾患、脊椎・脊髄損傷	
7	整形外科疾病論 5	末梢神経の疾患・外傷	
8	整形外科疾病論 6	骨折総論、体幹の骨折	
9	整形外科疾病論 7	上肢の骨折・脱臼	
10	整形外科疾病論 8	下肢の骨折・脱臼	
11	整形外科疾病論 9	腱・靭帯の損傷、スポーツ外傷	
12	整形外科疾病論 10	循環障害と壊死性疾患	
13	整形外科疾病論 11	骨・軟部腫瘍、神経筋疾患	
14	整形外科疾病論 12	熱傷、褥創、切断	
15	定期試験	筆記試験	

教科書	「標準理学療法学・作業療法学 基礎分野 整形外科学(第2版)」(医学書院)
参考書	講義中に適宜示す。

授 業 科 目 名	整 形 外 科 学 II	単 位 認 定 者	橋 本 俊 英
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	部位別整形外科疾患の特性と対応について、症例を提示し、テキストと資料を用いて解説する。
科 目 の 目 的	整形外科疾患を有する患者の理学療法を行う上で必要な知識を身につける。
学 習 到 達 目 標	1. 脊柱・四肢の各部位別に、整形外科疾患の病態生理、症状、検査、診断について理解する。 2. 代表的疾患については、初期治療からリハビリテーションの実際についての知識を整理し、合併症とその対応策について必要な知識を習得する。
関 連 科 目	臨床心理学、老年心理学、生命倫理、病理・解剖学、運動生理学、老年医学、救急医療、スポーツ医学、義肢・装具学
成 績 評 価 方 法	定期試験に授業参加態度を加味して評価する。(積極的な授業参加・質問を期待する)

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	脊柱の疾患 1	頰椎椎間板ヘルニア、頰椎後縦靭帯骨化症などの病態・症状・整形外科的治療・リハビリテーションについて学ぶ。	臨床医学大要(概論)1---整形外科学 s. 骨関節の構造と生理 t. 骨関節の病態生理 u. 整形外科的症候と診断 v. 整形外科的検査法 w. 保存的療法(牽引療法を含む) x. 手術的療法(一般) y. 骨関節の感染症 z. 関節リウマチとその類縁疾患 aa. 変形性関節症 bb. 末梢循環障害 cc. 阻血性壊死 dd. 先天異常および系統疾患 ee. 骨・軟部腫瘍 ff. 代謝性疾患 gg. 外傷と骨折 hh. 脊髄・脊椎疾患および損傷 ii. 末梢神経損傷(腕神経叢を含む) jj. スポーツ障害と外傷(スポーツ医学)
2	脊柱の疾患 2	頰髄損傷の病態・症状・整形外科的治療・リハビリテーションについて学ぶ。	
3	脊柱の疾患 3	腰椎椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症などの病態・症状・整形外科的治療・リハビリテーションについて学ぶ。	
4	脊柱の疾患 4	胸腰椎損傷による脊髄・馬尾損傷の病態・症状・整形外科的治療・リハビリテーションについて学ぶ。	
5	上肢の疾患 1	肩関節、上腕、肘関節、手関節、手指などの疾患・外傷の病態・症状・整形外科的治療・リハビリテーションについて学ぶ。	
6	上肢の疾患 2		
7	上肢の疾患 3		
8	上肢の疾患 4		
9	下肢の疾患 1	股関節、大腿骨、膝関節、足関節、足部などの病態・症状・整形外科的治療・リハビリテーションについて学ぶ。	
10	下肢の疾患 2		
11	下肢の疾患 3		
12	下肢の疾患 4		
13	症例提示(演習)1	知識の整理・復習	
14	症例提示(演習)2		
15	定期試験	筆記試験	

教 科 書	「標準理学療法学・作業療法学 基礎分野 整形外科学(第2版)」(医学書院)
参 考 書	講義中に適宜示す。

授 業 科 目 名	神 経 内 科 学 I	単 位 認 定 者	小 松 俊 一
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	理学療法士の基盤である神経系について理解し、実践に役立つ知識を身につける。
学 習 到 達 目 標	
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	試験のみ。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	神経系の解剖 I	神経系の成り立ちを構造的に理解し、血管系とのかかわりについて理解する。	I. 人体の構造と機能及び心身の発達 1. 解剖学 D. 神経系 a) 中枢神経系 b) 末梢神経系 G. 感覚器 I. 断層解剖
2	” II		
3	” III		
4	” IV		
5	” V		
6	神経生理学の基礎	情報伝達のしくみを生理学的、および薬理的視点から学ぶ。	2. 生理学 D. 神経生理 E. 感覚生理
7	神経薬理学の基礎		
8	解剖生理のまとめ		
9	神経症候学 I	神経系の異常をとらえる手順を系統的に理解する。	II. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 3. 臨床医学大要 (概論) B. 内科学 a) 症候学と病態生理 b) 診断学 E. 臨床神経学 a) 脳・神経の構造と生理 b) 脳・神経の病態生理 c) 神経学的症候と診断 d) 神経学的検査法 e) 治療法一般
10	” II		
11	” III		
12	” IV		
13	” V		
14	神経系の検査法 I	画像診断、電気生理学的診断方法の基礎を学ぶ。	
15	” II		

教 科 書	「神経内科学テキスト」江藤文夫 (南江堂)
参 考 書	

授 業 科 目 名	神 経 内 科 学 II	単 位 認 定 者	小 松 俊 一
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	理学療法士の基盤である神経系について理解し、実践に役立つ知識を身につける。
学 習 到 達 目 標	
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	試験のみ。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	疾患各論 1	脳血管障害 1	II. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 3. 臨床医学大要 (概論) E. 臨床神経学 f) 脳血管障害 h) 感染症 i) 脱髄疾患・変性疾患 j) 先天異常 k) 脊髄疾患 l) 抹消神経疾患 m) 自律神経疾患 n) 筋疾患
2	” 2	” 2	
3	” 3	” 3	
4	” 4	” 4	
5	” 5	感染・炎症・腫瘍	
6	まとめ I		
7	疾患各論 6	変性疾患 1	
8	” 7	” 2	
9	” 8	” 3	
10	” 9	” 4	
11	” 10	” 5	
12	まとめ II		
13	疾患各論 1 1	脊髄・末梢神経疾患	
14	” 1 2	筋疾患	
15	” 1 3	一般内科疾患にともなう神経疾患	

教 科 書	「神経内科学テキスト」江藤文夫 (南江堂)
参 考 書	

授 業 科 目 名	脳 神 経 外 科 学	単 位 認 定 者	天 野 数 義
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	理学療法を必要とする障害は脳神経外科疾患に起因するものが少なくない。障害の本質を理解するためにも脳神経外科学の基礎知識は不可欠である。とくに障害の原因となりうる疾患を重点的に勉強する。
学 習 到 達 目 標	脳神経外科学の基礎的知識の把握
関 連 科 目	神経内科学Ⅰ、神経内科学Ⅱ
成 績 評 価 方 法	定期試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	脳神経外科学序論	脳神経外科学とは、脳神経外科で扱う疾患	Ⅱ-3. 臨床医学大要（概論） E. 臨床神経学 a. 脳・神経の構造と生理 b. 脳・神経の病態生理 e. 治療法一般 f. 脳血管障害 g. 外傷性脳損傷 l. 抹消神経疾患
2	脳の構造	脳神経外科疾患理解のための解剖学、脳の保護、脳脊髄液	
3	脳の特長	脳浮腫、頭蓋内圧亢進症状、脳ヘルニア	
4	症状	一般症状と局所症状、意識、頭痛	
5	診断と治療	神経学的検査、補助検査、開頭手術と保存的治療	
6	頭部外傷(1)	頭蓋外の損傷	
7	頭部外傷(2)	頭蓋内の損傷	
8	頭部外傷(3)	頭部外傷後遺症、脳死	
9	頭部外傷(4)	スポーツ外傷、幼児虐待	
10	脳血管障害(1)	脳の血管系、高血圧、生活習慣	
11	脳血管障害(2)	閉塞性疾患、出血性疾患	
12	脳血管障害(3)	くも膜下出血	
13	脳腫瘍	良性腫瘍、悪性腫瘍	
14	その他の疾患	炎症性疾患、先天性疾患、機能的疾患	
15	定期試験	筆記試験	

教 科 書	使用せず
参 考 書	

授業科目名	小児科学 I	単位認定者	青山正征
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	教科書に沿って指導を進め、OHPにより、症例の写真を提示し学習する。ときに小レポート課題を出し、クラスで発表させ授業に参加している意識を持たせる。
科目の目的	理学療法士として小児のリハビリテーションを行う場合、基礎として、小児の生理・病理を理解し、疾患について学び、将来他の医療スタッフと業務の上で協調できる能力をもつことを目的とする。
学習到達目標	小児の成長・発達を学び、小児の疾患についても総合的に学ぶ。個々の疾患を覚えるのではなく、各疾患の特異性を平易に理解し学習することを目標とする。
関連科目	解剖学 生理学 人間発達学 他の臨床医学
成績評価方法	授業における態度（とくに出席について）および試験成績によって評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	小児科学概論	こどもの成長・発達について学ぶ リハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ	a. 小児の成長と発達
2	小児科学概論(つづき)		b. 小児保健と小児栄養
	診断と治療の概要		c. 小児科学的症候と診断
3	新生児・未熟児疾患		d. 小児科学的検査法
4	先天異常、先天代謝異常		e. 治療法一般
5	神経・筋・骨等疾患		f. 先天異常及び系統疾患
6	神経・筋・骨等疾患(つづき)		g. 脳・神経・筋疾患 てんかん
7	循環器疾患、呼吸器疾患		h. 循環器疾患、呼吸器疾患
8	感染症、消化器疾患		i. 感染症、消化器疾患
9	内分泌・代謝疾患		j. 内分泌・代謝疾患
10	血液疾患		k. 血液・造血器疾患
11	免疫・アレルギー疾患、膠原病		l. 免疫・アレルギー疾患
12	腎・泌尿器疾患、生殖器疾患、腫瘍性疾患		m. 泌尿器疾患
13	心身症、神経症など	n. 知的障害	
14	重症心身障害児、眼科・耳鼻科的疾患		
15	テスト	特に重症心身障害児に焦点をあてて学ぶ	

教科書	「標準理学療法学・作業療法学 小児科学」 富田 豊編 (医学書院) 2004.
参考書	「小児科学 第7版」 中山健太郎、矢田純一編 (文光堂) 2004. 「NEW小児科学 改訂版」 清野佳紀、小林邦彦、原田研介、桃井眞理子編 (南江堂) 2003.

授 業 科 目 名	老 年 医 学	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	理学療法士として高齢者とどのように接してゆくか、何ができるかを考える一助とする。
学 習 到 達 目 標	リハビリを支えるための老年医学の主要な概念と知識を一定レベルの水準を満たすように獲得すること。具体的には最終試験での受講者の過半数の者の正解率が75%に到ること。
関 連 科 目	病理学
成 績 評 価 方 法	試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	老化と老年病の考え方、生理機構の加齢変化	老化とは、加齢による生理機能の低下と疾病、老年症候群と機能評価、理学・作業療法との関連事項、感覚機能、自律機能、高次神経機能の加齢変化	加齢による病態生理変化
2	運動機能と精神心理面の加齢変化	高齢者の運動機能、運動機能の加齢変化、知能の障害	老年疾患・障害の特徴
3	高齢者に特徴的な症候と疾患、老年症候群	老年症候群の概念、代表的な老年症候群	老年疾患・障害の特徴
4	循環器疾患、呼吸器疾患	循環器疾患：うっ血性心不全、虚血性心疾患、脳血管障害、血圧異常、不整脈、弁膜症、心筋・心膜疾患、血管疾患、呼吸器感染症、誤嚥と誤嚥性肺炎、肺癌、閉塞性肺疾患、間質性肺炎	循環器疾患、呼吸器疾患
5	消化器疾患	高齢者の消化器癌、上部消化管疾患、腸疾患、肝疾患、胆道・膵疾患	消化器疾患
6	骨運動器疾患	骨粗鬆症、変形性関節症、後縦靭帯骨化症、関節リウマチ	変形性関節症、慢性関節リウマチ 末梢神経疾患、自律神経疾患
7	精神神経疾患	精神神経機能の老化、老年痴呆、うつ病、パーキンソン病、多系統萎縮症と自律神経障害、末梢神経障害	代謝・内分泌性疾患、血液疾患 腎疾患
8	内分泌代謝疾患、血液・免疫疾患	糖尿病、高脂血症、甲状腺疾患、痛風、貧血、白血病と骨髄低形成症候群、多発性骨髄腫、膠原病、	感染症
9	腎・泌尿器疾患、皮膚・口腔疾患	腎不全、尿路感染症、前立腺疾患、皮膚疾患、口腔疾患	
10	感染症、高齢者との接し方	高齢者の感染症の原因と特徴、診断の進め方、治療の留意点、臓器別感染症の特徴、院内感染対策とMRSA、高齢者との接し方：医療従事者の心得、患者・家族とのかかわり	加齢による病態生理変化 高齢者の治療とケアの特徴
11	高齢者の機能評価	高齢者の機能評価の意義、日常生活活動度の評価、知的機能の評価、QOL の評価	高齢者の治療とケアの特徴
12	高齢者の退院支援 高齢者の定義および人口動態	高齢者における退院支援の必要性、介護保険下の退院支援、高齢者の定義、世界と日本における人口動態	高齢者の治療とケアの特徴
13	社会学・経済学から見た高齢社会、高齢者の医療・看護・介護・福祉・保険	高齢社会の問題とは、生産人口、生産能力、健康度分布、世代間問題、高齢者の医療、看護、介護・福祉、介護保険制度、老人保健	
14	高齢者のリハビリテーション	高齢者のリハビリテーションの考え方、理学療法、作業療法、言語療法	
15	その他	必要に応じて時間的・内容的に補充する	

教 科 書	
参 考 書	

授 業 科 目 名	免 疫 ・ 感 染 症 学	単 位 認 定 者	伊 豫 部 志 津 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	病原微生物と免疫の基礎を理解し、生体防御と感染症の成立、予防、治療について学習する。
学 習 到 達 目 標	個々の細菌、真菌、ウイルス等の病原性を学ぶと同時に、予防の立場からは消毒法、ワクチン、予防接種を、治療の立場からは化学療法を学習する。一方免疫の基礎にのっとり、病原微生物との係わりあいから感染症が惹き起こされるしくみを知る。近年問題となっている、MRSA、VRE、O157、AIDS、BSE、新型インフルエンザ等の感染症や病院内における日和見感染症についての理解を深める。
関 連 科 目	生物学基礎、病理学、薬理学、臨床検査学
成 績 評 価 方 法	定期試験に平常点を加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	微生物学の基礎(1)	微生物の性質、細菌の性質、真菌の性質	II. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 1. 病理学概論《病理学》 E. 炎症・免疫 a. 炎症 b. 感染と免疫 c. アレルギー III. 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 1. 医学概論《医療概論》 d. 病原微生物と感染 e. 消毒と滅菌
2	微生物学の基礎(2)	原虫の性質、ウイルスの性質	
3	感染の機構	感染の成立から発症の機構	
4	感染とその防御(1)	感染に対する生体防御機構(免疫の機構)	
5	感染とその防御(2)	感染源、感染経路	
6	感染とその防御(3)	感染症の予防(消毒、ワクチンと予防接種)	
7	感染とその防御(4)	感染症の診断と治療(化学療法)	
8	感染とその防御(5)	感染症の現状と対策	
9	病原微生物(1)	病原細菌と細菌感染症(グラム陽性菌)	
10	病原微生物(2)	病原細菌と細菌感染症(グラム陰性菌)	
11	病原微生物(3)	病原細菌と細菌感染症(嫌気性菌、結核菌、放線菌)	
12	病原微生物(4)	病原細菌と細菌感染症(リケッチャ、クラミジア)	
13	病原微生物(5)	病原真菌、原虫と真菌、原虫感染症	
14	病原微生物(6)	病原ウイルスとウイルス感染症	
15	定期試験	筆記試験	

教 科 書	「系統看護学講座専門基礎分野 微生物学」(医学書院)
参 考 書	「イラストレイテッド微生物学」(南山堂)、「シンプル微生物学」(南江堂)

授 業 科 目 名	臨 床 検 査 学	単 位 認 定 者	小 林 功
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	医療スタッフとして必要な臨床検査医学の基礎的知識を学習する。
学 習 到 達 目 標	国家試験の出題基準を参考に、各種疾病を診断及び治療を行うための臨床検査の概略を把握する。
関 連 科 目	解剖学（人体構造） 生理学（人体機能） を含む各臨床科目
成 績 評 価 方 法	定期試験（筆記）

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	臨床検査とその役割	臨床検査の重要性、病気の診断及び治療における臨床データの寄与を知る	専門基礎分野 II. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 3. 臨床医学大要 A. 一般臨床医学 a. 問診・身体所見、記録 b. 血液などの検体検査 c. 生化学的検査 d. 生理学的検査 e. 画像検査 B. 内科学 a. 症候学と病態生理 b. 診断学 専門分野 II. 理学療法評価学 2. 基本的評価法 A. 評価の過程と方法 i. 平衡機能検査 1. 呼吸・循環・代謝機能検査
2	臨床検査の流れと医療スタッフの役割	医療チームの役割について	
3	系統別臨床検査の進め方	医療の現場ではどのように検査を進めているかを学ぶ	
4	一般検査	尿、便、体液の検査の理解	
5	血液検査	血沈（赤沈）、血球、出血、凝固	
6	化学検査（1）	血清タンパク、酵素、糖代謝、脂質代謝	
7	化学検査（2）	胆汁、腎機能、電解質、血液ガス等	
8	免疫・血清検査（1）	炎症マーカー、自己抗体、細胞性免疫	
9	免疫・血清検査（2）	免疫グロブリン、アレルギー、腫瘍マーカー等	
10	内分泌検査（1）	下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン	
11	内分泌検査（2）	副腎髄質ホルモン、副腎皮質ホルモン、性腺ホルモン、膵臓ホルモン、消化管ホルモン等	
12	微生物検査（1）	検体の取り扱い方、主な微生物の特徴と病気との関連性	
13	微生物検査（2）	同上	
14	病理検査	細胞診、病理組織検査	
15	生理機能検査	循環器、呼吸器、神経機能、超音波サーモグラフィー等	

教 科 書	「系統看護学講座 別巻6 臨床検査」大久保昭行 編（医学書院）
参 考 書	

授 業 科 目 名	カ ウ ン セ リ ン グ	単 位 認 定 者	勝 侯 映 史
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期 集 中
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義および実習
科 目 の 目 的	保健医療領域におけるいサービスに必要な人間観の形成と対応力について検討する。
学 習 到 達 目 標	(1) 保健医療領域において支援を必要とする人々について理解し, (2) 適切な支援のための基礎的・応用的な知識と実践力を習得すること
関 連 科 目	すべての科目と関連
成 績 評 価 方 法	試験成績, 授業態度, 出席状況を総合して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	I. カウンセリングの理論	保健医療領域における看護師および理学療法士の役割とカウンセリング: コンピタンス心理学の視点から	2 D 心理療法およびカウンセリング
2		カウンセリングの定義	
3		カウンセリングの歴史 (1)	
4		カウンセリングの歴史 (2)	
5	II. マイクロカウンセリングの技法	マイクロカウンセリングの技法 (1)	
6		マイクロカウンセリングの技法 (2)	
7		カウンセリングの基礎的技法練習 (1)	
8		カウンセリングの基礎的技法練習 (2)	
9	III. 保健医療に生	保健医療領域におけるカウンセリング	
10	かすカウンセリング	保健医療に生かすカウンセリング技法練習 (1)	
11	技法練習	保健医療に生かすカウンセリング技法練習 (2)	
12		保健医療に生かすカウンセリング技法練習 (3)	
13	IV. 高齢者介護にお	高齢者の心理と介護: コンピタンス心理学の視点から	
14	けるカウンセリング	高齢者の介護に生かすカウンセリング技法	
15	マインド	試験	

教 科 書	「看護に生かすカウンセリング —その理論と技法—」 鶴田一郎 (ブレーン出版) 2005.
参 考 書	「コンピタンス心理学」 勝侯映史 (培風館) 2005. 「臨床心理学入門事典」 岡堂哲雄 編 (至文堂) 2005.

授 業 科 目 名	リハビリテーション概論	単 位 認 定 者	松 澤 正
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	リハビリテーションは、障害を持った者が社会復帰するための過程であり、障害を持った者が、どのような理念で、また、どのような手順で社会復帰するか講義を通して理解させる。
科 目 の 目 的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置づけや役割を理解させる。
学 習 到 達 目 標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。
関 連 科 目	理学療法概論 リハビリテーション医学
成 績 評 価 方 法	筆記試験やレポート等を総合して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1		リハビリテーションの定義、理念	III-2. リハビリテーション概論 A. 総論 a. リハビリテーションの定義・歴史 b. ノーマライゼーション c. 自立生活 d. QOL B. 障害の概念、障害レベル C. 障害の心理 D. リハビリテーションの進め方 a. リハビリテーション関連職種とその役割 b. チームアプローチ E. リハビリテーションの諸相 a. 医学的リハビリテーション b. 教育的リハビリテーション c. 職業的リハビリテーション e. 地域リハビリテーション F. 保健医療福祉制度 G. 関係法規
2		リハビリテーションの歴史	
3		障害論（定義、障害の三つのレベル）	
4		障害者の実態	
5		障害の心理	
6		リハビリテーションの流れ	
7		リハビリテーションのチームと職種	
8		医学的リハビリテーション（予防的、回復的、維持的）	
9		リハビリテーションの定義、対象、方法）	
10		教育的リハビリテーション	
11		職業的リハビリテーション	
12		社会的リハビリテーション	
13		地域リハビリテーション	
14		寝たきり老人のリハビリテーション	
15		期末テスト	

教 科 書	プリント教材を使用する。
参 考 書	「入門リハビリテーション概論」中村隆一（医歯薬出版） 「現代リハビリテーション医学」千野直一（金原出版）

授 業 科 目 名	リハビリテーション医学	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義。そのつど、講義内容に関連したプリントを配布する。
科 目 の 目 的	神経系、筋・骨・関節系、呼吸器系、循環器系などの機能障害と、これに基づく能力障害や社会的不利を理解し、これらの障害に対するリハビリテーションを学習する。具体的には以下の四側面を学ぶ。1) 障害を、機能障害と能力低下、社会的不利、環境因子から多面的に評価する方法を学ぶ。2) 廃用症候群を含む種々の機能障害の病態生理と回復について学ぶ。3) 治療理論の概略を学ぶ。4) 種々の機能障害に関するリハビリテーション医学の臨床の概略について学ぶ。
学 習 到 達 目 標	リハビリを支える医学的な側面に関して、ある程度の理解に到達すること。
関 連 科 目	内科学。
成 績 評 価 方 法	試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	障害の評価	医学的情報の評価。機能障害の評価。能力低下（活動制限）の評価。社会的不利の評価。環境因子の評価。	障害の評価
2	機能障害の病態生理と回復1	筋肉・柔部組織損傷。骨・関節損傷。末梢神経損傷。	機能障害の病態生理と回復
3	機能障害の病態生理と回復2	大脳・基底核・脳幹・小脳の損傷。高次脳機能障害。脊髄の障害。	機能障害の病態生理と回復
4	機能障害の病態生理と回復3	痛み。呼吸機能。心機能。嚥下と口腔衛生。排泄。	機能障害の病態生理と回復
5	廃用症候群などの病態生理	発生機序。廃用症状。誤用と過用。	廃用症候群。
6	治療理論1	関節可動域。筋力増強。中枢神経障害。	治療理論
7	治療理論2	体力と持久力。バイオフィードバック。運動負荷とリスク管理。	治療理論
8	リハビリテーション医学の臨床1	脳血管障害。外傷性脳損傷。	脳血管障害。外傷性脳損傷。
9	リハビリテーション医学の臨床2	脊髄損傷。脳性麻痺。末梢血管疾患。	脊髄損傷。脳性麻痺。末梢血管疾患。
10	リハビリテーション医学の臨床3	切断と義肢。末梢神経麻痺。変性疾患。	切断と義肢。末梢神経麻痺。変性疾患。
11	リハビリテーション医学の臨床4	筋疾患。慢性関節リウマチ。その他の膠原病。	筋疾患。慢性関節リウマチ。その他の膠原病。
12	リハビリテーション医学の臨床5	骨関節の外傷および疾患。呼吸器疾患。	骨関節の外傷および疾患。呼吸器疾患。
13	リハビリテーション医学の臨床6	循環器疾患。糖尿病。血液疾患。	循環器疾患。糖尿病。血液疾患。
14	リハビリテーション医学の臨床7	悪性腫瘍。視覚障害。聴覚・平衡障害。高齢者。	悪性腫瘍。視覚障害。聴覚・平衡障害。高齢者。
15	試験	試験	

教 科 書	
参 考 書	「入門 リハビリテーション医学」中村隆一監修（医歯薬出版株式会社）

授 業 科 目 名	臨 床 心 理 学	単 位 認 定 者	勝 俣 映 史
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期 集 中
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	保健医療領域におけるサービスに必要な人間観の形成と対応力について検討する。
学 習 到 達 目 標	(1) 保健医療領域において支援を必要とする人々について理解し, (2) 適切な支援のための基礎的な知識と実践力を習得すること。
関 連 科 目	すべての科目と関連
成 績 評 価 方 法	試験成績, 授業態度, 出席状況を総合して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1 2	I 臨床心理学とは	1. 心理学とは 2. 臨床心理学の定義 3. 問題行動の意味 4. 医療領域における臨床心理学的視点	2 A 基礎理論 B 正常および異常心理
3 4 5	II 心理アセスメント (査定)	1. 問題行動の心理アセスメント 2. 行動観察による心理アセスメント 3. 面接法による心理アセスメント 4. 心理検査によるアセスメント(1) 質問紙形式の心理検査 5. 心理検査によるアセスメント(2) 作業形式および投影法による心理検査	2 C 臨床心理検査法
6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	III 心理療法の理論と 実際	0. 心理療法とは 1. 医療領域に生かせる心理療法 2. カウンセリング 3. 行動療法・認知行動療法 4. 自律訓練法・動作法 (臨床動作法) 5. 芸術療法と描画法 6. 回想法 7. 記憶リハビリテーション(1) 8. 記憶リハビリテーション(2) まとめ 試験	2 D 心理療法およびカウンセリング

教 科 書	
参 考 書	「コンピタンス心理学」勝俣瑛史 (培風館) 「臨床心理学入門事典—現代のエスプリ別冊特集号」岡堂哲雄編 (至文堂)

授業科目名	看護学入門	単位認定者	城生弘美
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義・演習
科目の目的	保健医療福祉の分野で共に働く者が互いの専門領域を理解しあうことは、より良い医療を提供するうえで望ましい。看護の役割と機能を学び、医療の受け手である人間への関わり方について理解を深めることを目的とする。
学習到達目標	1. 医療の受け手である人間について理解を深めるとともに、健康とQOLについて考察する。 2. 対象と関わる方法論としてのコミュニケーション技術や対象を把握するための観察の必要性について理解する。 3. 基本的な応急手当の方法について理解する。 4. チーム医療の重要性について理解する。 5. 医療職に関わる法的側面および倫理的側面について理解を深める。
関連科目	
成績評価方法	出席状況 レポート

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	「看護」とは何か	看護とは、看護の成り立ちと歴史	
2	「看護」とは何か	教育制度(看護と理学、他)	
3	「人間」とは何か	マズローの基本的欲求と人間	
4	「健康」とは何か	WHOの定義、「病気」とは、「健康」とは	
5	「QOL」とは何か	生命の質、生活の質について考える	
6	コミュニケーション	コミュニケーションとは	
7	コミュニケーション	コミュニケーション技術について	
8	観察について	何を観察するか	
9	観察について	どのように観察するか	
10	応急手当法	基本的な応急手当について1	
11	応急手当法	基本的な応急手当について2	
12	チーム医療について	チーム医療と自分の役割1	
13	チーム医療について	チーム医療と自分の役割2	
14	法律について	看護職と理学療法士に関わる法律について	
15	倫理について	医療職に求められる倫理とは	

教科書	特に指定しない。
参考書	「看護 ベッドサイドの光景」増田れい子(岩波新書)、「看護婦の現場から」向井承子(講談社現代新書)「日本の医療を問いなおすー医師からの提言」鈴木厚(ちくま書房)、この他随時紹介する。

授 業 科 目 名	社会福祉・地域サービス論	単 位 認 定 者	金 谷 春 代
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	福祉制度が存する意義を確認し、専門職として基礎的な知識を持つことを目的とする。
学 習 到 達 目 標	福祉制度全般について知ることと日本の社会で確立されている福祉サービスの実際を知ること。
関 連 科 目	地域社会学 社会福祉・社会保障制度論
成 績 評 価 方 法	筆記試験に平常点を加味して評価する。小レポートを課す場合もある。

回	講義題目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	福祉の捉え方	福祉とは何か	III-2 リハビリテーション概論 A. 総論（理念） B. 障害の概念と分類 C. 障害と心理 D. リハビリテーションの進め方 E. リハビリテーションの諸相 F. 保健医療福祉制度 a. 保健・医療制度 b. 社会保険制度 c. 社会福祉と公的扶助制度 d. 公的介護保険制度 G. 関係法規 c. 福祉関係法規 1) 児童福祉法 2) 身体障害者福祉法 3) 知的障害者福祉法 4) 老人福祉法
2	福祉の社会的背景	福祉制度の成立から地域福祉への時間経過と社会の変化について	
3	地域福祉の考え方	福祉サービス提供の「場」について	
4	地域福祉の内容と展開		
5	サービスの実際Ⅰ	福祉サービスの種類と内容について 具体的なサービスについて理解する	
6	サービスの実際Ⅱ		
7	サービスの資源と財源	サービスにおける費用の仕組みについて	
8	介護保険制度成立の意義と現状課題	介護保険制度成立の意味と経過について理解し、実際の制度運用と介護保険の現状を捉える。	
9	医療保険制度成立の意義と現状課題	医療保険制度の意味と現状課題について理解する。	
10	地域福祉と保健医療	地域における保健医療・福祉のあり方	
11	地域福祉における権利擁護	「権利擁護とは何か」	
12	地域福祉における専門職	福祉にかかわる専門職と役割分担。	
13	地域福祉における専門技術	地域福祉展開における専門技術とは。	
14	地域福祉ネットワークの事例	「利根沼田在宅ネットワークの会」立ち上げの意味と目的	
15	試験		

教 科 書	「新・社会福祉概論―変革期の福祉を見つめて」 千葉茂明 宮田伸朗著 ((株)みらい)
参 考 書	「介護保険時代の医療福祉総合ガイドライン」(医学書院) 「社会福祉六法」「国民の福祉の動向」

授 業 科 目 名	レ ク リ エ ー シ ョ ン 論	単 位 認 定 者	近 藤 照 彦
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義（教室）
科 目 の 目 的	レクリエーションの範囲、種類を明確にすること。治療するためのレクリエーション活動であることを明確にすること。治療的レクリエーションの種類と技法として臨床場面で使われている代表的なものを演習することである。
学 習 到 達 目 標	障害に適応するレクリエーションを導入するための目的および治療的意義について理解する。 障害に適応するレクリエーションを立案することができる。 グループワークにより、障害に応じたレクリエーションを発表することができる。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	グループ発表会および出席にて総合的に評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	ガイダンス レクリエーションの 基本理念	ガイダンス レクリエーションの範囲と種類	
2	治療的レクリエーション技法	集団の意義、立案と展開 レクリエーション実施と活用	
3	種目別にみたレクリエーション活動	遊技、ゲーム、レクリエーション	
4	グループ発表会		
5	グループ発表会		
6	グループ発表会		
7	グループ発表会		

教 科 書	「レクリエーションー社会参加を促す治療的レクリエーションー改訂第二版」（三輪書店）
参 考 書	

授 業 科 目 名	国 際 医 療 協 力	単 位 認 定 者	成 瀬 和 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義、演習とその発表形式 夏休みの課題学習：国連大学、JICA、国際協力プラザなど見学、国際保健NGO活動参加など
科 目 の 目 的	国際協力の目的や意義を理解し、保健医療協力の分野で活動できる人材の育成を目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 国際協力の歴史的な経緯と最近の動向が理解できる 2. 保健医療協力の必要性とその特徴が理解できる 3. 開発途上国における保健医療の問題が理解できる 4. 保健医療協力の現場で活動するために必要な資質が理解できる
関 連 科 目	関連する教養科目—国際関係論、医療英語・外書講読（国際医療協力英語）、 関連する専門基礎科目—公衆衛生学、疫学・保健統計 この科目が基盤となる専門科目—すべての専門科目
成 績 評 価 方 法	課題に対するレポートにより評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	国際協力とは	1. 国際協力の考え方の変遷 第二次世界戦争以降の取り組みと開発思想 先進国と途上国について 2. 国際機関、NGO、その他の援助機関の役割 途上国の援助ニーズにどのように応えてきたのかなどについて概説する。 3. 日本の国際協力の流れを解説する。 日本が受けてきた援助：LARA物資など ODAとは 4. 最近の国際協力の動向について	
2	保健医療協力の必要性とその特徴	1. なぜ国際協力が必要なのか 疾病の治療や予防は、世界の人々が等しく健康を維持するために重要な対策である。 2. 保健医療協力の特徴 ・保健医療協力は相手国の国策としてサービス 充実により、相手国の発展に寄与する。 ・新興感染症対策における世界的な取り組み 3. 看護の国際協力について	
3	開発途上国における 保健医療の問題	1. 先進国と開発途上国について 2. 健康問題の格差 生活と環境 貧困と健康 栄養と感染症	
4		3. 母子保健とジェンダー リプロダクティブヘルスの視点から、母子保健 の現状を概説する。	
5	協力活動の実践例	1. 青年海外協力隊活動 2. NGO難民キャンプでの活動例 3. JICA専門家	
6	国際協力で求められるもの	1. 国際協力のイメージと実際 2. 国際協力分野で求められる資質について JICA（政府ベース） 国際機関またNGO	
7	まとめ		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士

教科書	「国際看護学入門」国際看護研究会編（医学書院）
参考書	「国際保健・看護」丸井英二・森口育子編（弘文堂） 「いのち・開発・NGO デビットワーナー」（新評論） 「私のしごと」緒方貞子（草思社） 「国際保健看護 ビバリーヘンリー」（看護の科学社） 「日本の保健医療の経験」（JICA国際協力総合研究所）「国際協力の地平」NGO活動教育研究センター（昭和堂） 「世界を翔けたナースたち」JOCV看護職ネットワーク編（青年海外協力協会） 「国際保健医療のおしごと」中村安秀編（南山堂） その他：雑誌「国際協力」「クロスロード」

授業科目名	国際医療協力演習	単位認定者	矢 嶋 和 江
対象学年	第 2 学 年	学 期	前 期 集 中
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	国際保健NGOの保健プロジェクトに参加
科 目 の 目 的	開発途上国における保健プロジェクト活動を通して、国際協力の現場での実践を学び、また看護の国際協力における役割を理解することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 開発途上国の保健医療の現状が理解できる 2. 国際協力における国際機関やNGOの役割が理解できる。 3. 国際協力に求められる看護職の資質、またその役割が理解できる。 4. 異文化間コミュニケーションを通して、文化理解の必要性が理解できる。
関 連 科 目	関連する教養科目—国際関係論、国際医療協力英語 関連する専門基礎科目—公衆衛生学、疫学・保健統計、医療民族学
成 績 評 価 方 法	課題に対するレポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
		<p>国際保健NGOの保健プロジェクトの現場を訪問し、ホームステイ等を通して、現地の保健ボランティアと共に行動し、住民教育を体験する。</p> <p>1. 事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問予定国の歴史・文化（生活習慣など）政治・経済などの理解 ・ 保健医療従事者などを含めた教育体制 ・ 保健概要 ・ その他 <p>3. 主催者側のオリエンテーション参加</p> <p>※ 研修予定 派遣国：タイ、カンボジア、東チモール等 派遣期間：7月下旬～8月下旬の間（7日間）</p> <p>備考</p> <p>※ 選択履修（任意参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 希望者は早めにパスポートを取得、パスポートの期限は6ヶ月以上あること ・ 予防接種は原則不要 摂取希望者：A型肝炎、破傷風、狂犬病、（インフルエンザ）などがある ・ 費用20万円前後必要（別途） 	

教科書	
参考書	

授業科目名	災害時生活体験	単位認定者	高木タカ子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義及び演習
科目の目的	災害が発生しライフラインが途絶した状況下で自活して行く為の、基本的な知識、技術や判断力、応用力を集団生活を通して体験する。
学習到達目標	1. ライフラインが断たれた時の対処法がわかる。 2. 集団行動を理解しその一員として行動できる。 3. 集団の中で生活しながら自分に気が付くことができる。 4. 日常生活の中で災害に対する準備ができる。
関連科目	教養科目—心理学・生活学・地域社会学 専門基礎科目—免疫・感染症学・看護学入門・救急法・栄養学・国際医療協力 専門科目—災害看護・地域看護学
成績評価方法	出席状況(講義・グループワーク・演習の参加) レポート提出及びその内容

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	科目オリエンテーション等	科目の内容・学習の進め方・自己学習 グループワークについて 個人として集団として生きるために何が必要か。 人間とは・健康とは・環境とは・看護とは・ 人間の基本的ニード・安全のニード・社会的ニード とは	
2	デイキャンプオリエンテーション	目的・内容・実施方法・準備について	
3	災害とは、災害の種類とその特徴 災害に対する対処 個人と集団	個人：自分の命を守る。健康を維持する。 私達はそれ以外に職業人としての役割がある。 集団：地域・市町村県・国	
4	災害時生活体験のオリエンテーション 演習第1回 デイキャンプ(1日) 5/20(土) 北毛青年の家 費用の目安(昨年実績)1,850円 演習第2回 災害時生活体験 (2泊3日) 8/29・30・31 高山キャンパス校庭 費用の目安(昨年実績)11,860円 ※第1回、第2回の費用に交通費は含まない	目的・目標・内容・実施方法・準備について デイキャンプ内容 ①集合、整列 ②薪で飯盒炊飯 ③班毎の食事 ④食事の後始末 ⑤点呼(人員確認) ⑥キャンプファイヤー ⑦グループ評価 デイキャンプグループ評価発表 災害時生活体験実施 ①集合、整列、点呼、テント設営 ②災害食体験 ③簡易トイレ体験 ④キャンプファイヤー ⑤寝袋体験 ⑥整理整頓 ⑦講義：心肺蘇生法・老年体験・災害ビデオ学習 災害時生活体験評価発表	

教科書	「災害看護」(メディカ出版) 「看護の基本となるもの」バージニアヘンダーソン著(日本看護協会出版会)
参考書	「共育キャンプ高木学校(保助看学生のための体験学習実践記録)」高木タカ子著(ミリオン書房) 「関東大震災」吉村昭著(文春文庫) 阪神大震災に関する資料 名古屋地方における大水害 中越地震に関する資料 海外の大津波の資料 大雪による災害・新聞・週刊誌・雑誌の切り抜き等

授 業 科 目 名	理 学 療 法 概 論	単 位 認 定 者	浅 田 春 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義 14 コマ・学外実習 (施設見学) 1 コマ
科 目 の 目 的	この科目では、「理学療法とは何か」について理学療法の定義、目的、歴史、対象や業務、職域、職業倫理、学術活動など概説し、理学療法の全体像を理解することを目的とする。また、理学療法士がリハビリテーションや医療・保健・福祉の中で果たす役割や責任、理学療法士に必要な知識・技術・態度を自ら考えられるようになることを目的とし、講義のほか施設見学や演習を実施する。
学 習 到 達 目 標	1. 理学療法の定義、歴史、対象、業務、役割などの理学療法の基本を説明できる。 2. 保健・医療・福祉分野での理学療法やリハビリテーションの中での位置づけを説明できる。 3. 理学療法の流れを施設見学の中で確認し、理学療法 (士) をイメージできる。 4. グループワークの中で自分の役割を果たすことができる。 5. 意見交換や見学した内容を適切に記録し、報告することができる。
関 連 科 目	関連しあう科目ーリハビリテーション概論 看護学入門 作業療法概論 言語聴覚治療概論 この科目が基礎となる科目 理学療法セミナー I・II・III 見学実習
成 績 評 価 方 法	定期試験・レポート提出、出席状況を加味して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	オリエンテーション	講義概要 グループダイナミクス	I-1. 理学療法の概念 A. 定義 B. 歴史 I-1. 理学療法の概念 C. 理念 a. 保健・医療・福祉における理学療法の考え方 I-1. 理学療法の概念 D. 対象と目的 a. 保健・医療・福祉における理学療法 b. 障害の捉え方 (障害分類) I-4. B. 法規 a. 理学療法士及び作業療法士法 b. 関連法規 I-4. 医療専門職と倫理 A. 倫理 a. ノーマライゼーション b. インフォームド・コンセント I-4. C. 管理 a. 理学療法部門の管理運営 b. チームワーク
2	理学療法の概念	理学療法の定義・目的・理念・対象	
3	理学療法の法体系	「理学療法士及び作業療法士法」	
4	理学療法の歴史	理学療法の歴史 各種理学療法技術の歴史	
5	理学療法の流れ	理学療法の評価	
6	〃	理学療法の技術体系	
7	〃	理学療法の技術体系	
8	職域と役割	医療・保健・福祉分野における理学療法	
9	〃	リハビリテーションの中での理学療法の位置づけ	
10	理学療法と倫理	グループワーク：理学療法士の倫理・哲学・適性とは	
11	〃	グループワーク	
12	〃	グループ報告およびまとめ「生命・医療倫理」	
13	学術活動と職業管理	研究・学術活動の現状 職業管理 チームワーク	
14	テスト	筆記試験	
15	理学療法の実際	施設見学 別日程 (後日掲示) で実施	

教 科 書	「理学療法概論 第4版」奈良 勲 (医歯薬出版株式会社)
参 考 書	「理学療法概論 第4版 (理学療法科学シリーズ)」理学療法科学学会編 (アイペック株式会社) 「目でみるリハビリテーション医学」上田 敏 (東京大学出版)

授業科目名	基礎理学療法学	単位認定者	富田和秀
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	2単位（15コマ）	必修・選択	必修

指導方法	講義（一部演習と実技実習を含む）15コマ
科目の目的	本講座では、運動療法を行う前提として知っておかなければならない基礎知識を理解することを目的とする。具体的学習内容としては運動療法の概念と基礎、運動の種類、基本的な運動療法、特殊な運動療法などを学習する。
学習到達目標	本講座の到達目標は、運動療法の基礎知識を整理・理解し、より専門的な理学療法治療学（運動器系・神経系・呼吸循環代謝系・徒手系・高齢者・スポーツ傷害の理学療法治療学）を学ぶための基礎的学習能力を確立させることである。
関連科目	専門基礎科目群：解剖学、生理学、運動学、運動生理学、リハビリテーション医学 専門科目群：運動系理学療法学、神経系理学療法学、呼吸・循環・代謝系理学療法学、徒手系理学療法学、高齢者理学療法学、スポーツ傷害・障害理学療法学
成績評価方法	定期試験に加え、小テスト・課題レポート・授業参加度などを加味して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
	オリエンテーション	今後の講義予定	
1	運動療法の概念	運動療法の歴史・定義・方法・今後の課題	I. 基礎理学療法学 3. 理学療法の基礎理論.
2	理学療法の基礎	関節の構造と運動	A. 関節可動域運動の理論
3	〃	随意運動のメカニズム	a. 関節運動のメカニズム b. 他動的関節可動域運動 c. 自動的関節可動域運動 d. 関節可動域制限（拘縮・強直を含む）
4	〃	運動制御と運動学習	
5	組織の病態生理と修復	運動系・神経系組織の病態生理と修復	B. 神経・筋機能の理論
6	基本的な運動療法	全身調節運動、リラクゼーション	a. 中枢神経系 （覚醒、促通、抑制、運動麻痺、痙縮、固縮） b. 末梢神経系 （伝導、再生、運動麻痺など）
7	〃	運動の種類、関節可動域運動	c. 反射・反応 d. 筋収縮・弛緩
8	〃	関節可動域運動の実際	e. 筋力・持久力・協調性 f. 筋肥大・萎縮
9	〃	筋力増強運動	
10	〃	持久力増強運動	C. 運動制御・運動学習の理論
11	〃	協調性運動	a. 発達・加齢 b. 随意運動・不随意運動 c. 姿勢 d. 姿勢反射 e. フィードバック
12	特殊な運動療法	疼痛に対する運動療法	
13	〃	神経生理学的アプローチ	D. 痛みの理論
14	〃	脳性麻痺に対する運動療法	a. 評価 b. メカニズム c. 病態
15	テスト	テスト	E. バイオメカニクス

教科書	「標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論」吉尾雅春 編集（医学書院）
参考書	「運動療法Ⅰ」全国PT・OT学校養成施設連絡協議会 理学療法部会九州ブロック会編（神陵文庫） 「理学療法ハンドブック 改訂第3版 第1巻 理学療法の基礎と評価」細田多穂・柳澤 健 編集（協同医書出版社）

授 業 科 目 名	理 学 療 法 セ ミ ナ ー I	単 位 認 定 者	目 黒 力
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と演習を中心に行う。 講義 10 コマ 学外演習 4 コマ (於：北毛青年の家)
科 目 の 目 的	理学療法士としての基礎を確立するために、理学療法士や医療に関わるスタッフなどから直接臨床像を 探求させ、自身の将来像を模索することを目的とする。また演習や共同作業を通して、より実践的、臨 床的な学習をする。
学 習 到 達 目 標	グループ作業などを通して円滑に個人の与えられ課題を遂行することができる。 理学療法士としての基礎的学習準備段階が確立することができる。
関 連 科 目	理学療法セミナーⅡ～Ⅳ 基礎理学療法学 理学療法概論
成 績 評 価 方 法	出席・レポート・発表報告などを総合して行う。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	宿泊研修 (1)	1泊2日の宿泊研修を通して共同作業を通してクラ スメイト、教員とのコミュニケーションの確立を目 指す	I 基礎理学療法学 1. 理学療法の理念 4. 医療専門職と倫理
2	宿泊研修 (2)		
3	宿泊研修 (3)		
4	宿泊研修 (4)		
5	理学療法士の基礎 1	1～10は各教員より講義、演習などを通して 理学療法士としての基礎の確立を目的に展開する	
6	理学療法士の基礎 2		
7	理学療法士の基礎 3		
8	理学療法士の基礎 4		
9	理学療法士の基礎 5		
10	理学療法士の基礎 6		
11	理学療法士の基礎 7		
12	理学療法士の基礎 8		
13	理学療法士の基礎 9		
14	理学療法士の基礎 10		
15	発表報告	セミナーを通して学んだことなどを発表報告する	

教 科 書	使用しない
参 考 書	使用しない

授 業 科 目 名	理 学 療 法 セ ミ ナ ー Ⅱ	単 位 認 定 者	目 黒 力
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と演習を中心に行う。 講義 10 コマ 実習 5 コマ
科 目 の 目 的	理学療法士としての基礎を確立するために、理学療法士や医療に関わるスタッフなどから直接臨床像を探求させ、自身の将来像を模索することを目的とする。セミナーⅠ学んだ方法を生かし、より実践的にグループワークをおこない、見学実習、評価実習に向けた学習準備状態の確立をめざす。
学 習 到 達 目 標	グループ作業などを通して円滑に個人の与えられ課題を遂行することができる。 理学療法セミナーⅠを通して学んだ基礎的学習準備段階から、応用的学習準備段階に移行することができる。
関 連 科 目	理学療法セミナーⅠ,Ⅲ,Ⅳ 基礎理学療法学 理学療法概論 臨床実習Ⅲ
成 績 評 価 方 法	出席・レポート・発表報告などを総合して行う。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	オリエンテーション	講義内容、講義予定 今後の展開	Ⅰ 基礎理学療法学 1. 理学療法理念 4. 医療専門職と倫理
2	理学療法士の基礎Ⅱ	理学療法士としての条件	
3	理学療法士の基礎Ⅱ	グループワーク	
4	理学療法士の基礎Ⅱ	グループワーク	
5	関連医療職との連携	看護師との連携	
6	関連医療職との連携	保健師との連携	
7	関連医療職との連携	介護分野との連携	
8	関連医療職との連携	その他医療職との連携	
9	プレ実習	各班に分かれ見学実習ならびに評価実習に向けた実践的グループワークを行う	
10	プレ実習		
11	プレ実習		
12	プレ実習		
13	プレ実習		
14	プレ実習		
15	発表報告会		

教 科 書	使用しない
参 考 書	使用しない

授業科目名	理学療法評価学	単位認定者	富田 浩
対象学年	第 1 学年	学期	後 期
単位数	2 単位 (1 5 コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義および実習
科目の目的	理学療法評価の意義、目的、評価の過程を知ること。また、基本的事項である情報収集、問診、記録と形態計測および関節可動域測定ができるようになること。
学習到達目標	理学療法評価の意義、目的、評価の過程が言える。情報収集、問診の必要項目を挙げるができる。記録方法が言える。評価時に理学療法士が配慮すべき点を挙げるができる。学生同士で形態計測および関節可動域測定ができる。
関連科目	理学療法概論 運動器系理学療法評価学 神経系理学療法評価学 呼吸・循環・代謝系理学療法評価学 理学療法評価学演習
成績評価方法	筆記試験および実技試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	理学療法評価総論	意義・目的 評価の対象 国際障害分類, 国際生活機能分類 評価の種類 一般的情報, 検査, 測定, 観察	I-2. 理学療法の過程 A. 評価 a. 情報収集と分析 b. 患者のニーズと問題点 B. 治療計画 a. 治療方針 b. 目標の設定 c. 目標達成の時期 d. 治療計画の立案 C. 治療の実施 a. 治療手順の設定 b. 治療記録・報告 D. 効果判定 a. 治療内容の妥当性 b. 目標達成の評価
2	理学療法評価総論	評価の過程 情報の入手, 分析と考察, 問題点リストの整理, 目標設定と治療プログラム立案	
3	理学療法評価総論	評価の時期と目的 初期, 中間, 最終	
4	理学療法評価総論	接遇・オリエンテーション インフォームド・コンセント 守秘義務, 個人情報保護法	
5	理学療法評価総論	評価環境・評価器具・評価時の注意点 情報収集 (医学的情報・社会的情報) 病歴のとり方, 面接, 問診, 観察 記録 記録の 4 条件, 記録内容, 理学療法診療記録, POS, 報告書	
6	理学療法評価各論	形態計測 (1)	II-2. 基本的評価法 A. 評価の過程と方法 c. 四肢長・周径測定
7	理学療法評価各論	形態計測 (2)	
8	理学療法評価各論	形態計測 (3)	
9	理学療法評価各論	関節可動域測定 (1)	II-2. 基本的評価法 A. 評価の過程と方法 d. 関節可動域測定
10	理学療法評価各論	関節可動域測定 (2)	
11	理学療法評価各論	関節可動域測定 (3)	
12	理学療法評価各論	関節可動域測定 (4)	
13	試験	実技試験	
14	試験	筆記試験	
15	まとめ	理学療法評価の課題	

教科書	「理学療法評価学第 2 版」松澤正著 (金原出版株式会社)
参考書	「理学療法ハンドブック第 1 巻」細田多穂, 柳澤健編 (協同医書出版社) 「標準理学療法学専門分野理学療法評価学」奈良勲監修 (医学書院)

授 業 科 目 名	運 動 器 系 理 学 療 法 評 価 学	単 位 認 定 者	浅 田 春 美
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および実習
科 目 の 目 的	運動学で学んだ運動器系の機能を再確認しながら、それらの検査方法の理論と技術を習得する。評価技術の基本である関節運動の評価として関節可動域測定（以下 ROM-T）、筋力の評価として徒手筋力検査法（以下 MMT）、痛みの評価を中心に学習し、実施できるようにする。
学 習 到 達 目 標	1. 運動器系障害に共通した評価項目を挙げるができる。 2. 関節可動域測定の目的・意義・測定方法を説明し、実施することができる。 3. 正常な関節の END-FEEL を体験し、解剖学の知識と照らし合わせ説明できる。 4. 徒手筋力検査法の目的・意義・測定方法を説明し、実施することができる。 5. 各測定方法の注意点や代償運動など説明できる。
関 連 科 目	理学療法評価学演習、神経系理学療法評価学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価学、臨床運動学、各種疾患の理学療法学、日常生活活動学
成 績 評 価 方 法	筆記試験および実技試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	運動器系評価概要 各論：痛みの評価	運動器系評価項目について 痛みの評価	II-2. 基本的評価法 A. 評価の過程と方法 d. 関節可動域測定 e. 筋力・持久力測定 f. 痛みの検査
2	関節可動域測定法	関節可動域測定の目的・意義・注意点 関節可動域測定の実際<肘：END-FEEL の確認>	
3		関節可動域測定<肩甲帯・肩関節>	
4		関節可動域測定<肘関節・手関節・手指>	
5		関節可動域測定<股関節>	
6		関節可動域測定<膝関節・足関節・足指>	
7	筋力測定	筋力及び筋持久力の定義・筋力測定の目的・種類 機器を使用した筋力測定法	
8	徒手筋力測定法	徒手筋力測定法の目的・意義・抵抗・注意点 徒手筋力測定の実際<肘関節>	
9		徒手筋力測定の実際<肩甲帯>	
10		徒手筋力測定の実際<肩関節>	
11		徒手筋力測定の実際<手関節・手指>	
12		徒手筋力測定の実際<股関節>	
13		徒手筋力測定の実際<膝関節・足関節>	
14	試験	実技試験	
15	試験	筆記試験	

教 科 書	「理学療法評価学 第2版」松澤正著（金原出版株式会社） 「新・徒手筋力検査法 原著第7版」津山直一訳（協同医書出版）
参 考 書	「運動器疾患の評価」岩倉博光、栢森良二監訳（医歯薬出版株式会社） 「関節可動障害～その評価と理学療法・作業療法」嶋田智明、金子翼編（メディカルプレス） 「関節可動域測定法～可動域測定の手引き～改定第2版」木村哲彦/監訳（協同医書出版社） 「標準理学療法学専門分野理学療法評価学」奈良勲監修（医学書院） その他：講義にて随時紹介します

授 業 科 目 名	神 経 系 理 学 療 法 評 価 学	単 位 認 定 者	柴 田 雅 祥
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および実習
科 目 の 目 的	神経系疾患に生じる障害の機能評価としての各種検査法と、検査結果をいかに統合・解釈し、問題点を抽出、目標を設定していくかを学習することを目的とする。具体的には片麻痺機能テスト、筋緊張検査、反射検査、感覚検査、姿勢反射検査、協調性検査、高次脳機能検査などを取り上げ、それら検査の意義、正常と異常のちがい、さらに各種検査所見を統合した結果と障害像の関係を学習する。
学 習 到 達 目 標	1. 神経系疾患に生じる障害の機能評価としての各種検査法を実施することができる。 2. 疾患に即した検査方法を選択することができる。 3. 検査結果を統合・解釈し、問題点を抽出、目標を決定することができる。
関 連 科 目	理学療法評価学、理学療法評価学演習、神経系理学療法学、神経系理学療法学演習、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ
成 績 評 価 方 法	筆記試験および実技試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	概論 (1)	神経系疾患における理学療法評価とは	Ⅱ-1. 理学療法評価の基本的理解 A. 評価の時期と進め方 a. 初期・中間・最終評価の意義・目的・手段 b. 評価の手順 Ⅱ-2. 基本的評価法 A. 評価の過程と方法 b. 感覚検査 Ⅱ-2. 基本的評価法 A. 評価の過程と方法 a. 反射検査 Ⅱ-2. 基本的評価法 A. 評価の過程と方法 i. 平衡機能検査 k. 姿勢反射検査 Ⅱ-2. 基本的評価法 A. 評価の過程と方法 h. 協調性検査 Ⅱ-2. 基本的評価法 A. 評価の過程と方法 g. 筋緊張検査 Ⅱ-2. 障害別評価法 A. 障害領域の評価法 b. 神経内科領域 c. 脳外科領域
2	概論 (2)	評価の統合, 問題点抽出, 目標設定	
3	各論 (1)	知覚検査 (Ⅰ)	
4	各論 (2)	知覚検査 (Ⅱ)	
5	各論 (3)	反射検査	
6	各論 (4)	姿勢反射検査・平衡機能検査	
7	各論 (5)	協調性検査	
8	各論 (6)	筋トーンス検査	
9	各論 (7)	片麻痺運動機能検査 (Ⅰ)	
10	各論 (8)	片麻痺運動機能検査 (Ⅱ)	
11	各論 (9)	脳神経検査	
12	各論 (10)	高次脳機能検査	
13	各論 (11)	意識障害・痴呆・嚥下障害の評価	
14	各論 (12)	神経系疾患にみられる特徴的な動作	
15	試験	筆記試験	

教 科 書	「理学療法評価学第2版」松澤正 (金原出版) 「ベッドサイドの神経の診かた」田崎義明ら (南山堂)
参 考 書	「理学療法ハンドブック第1巻」細田多穂, 柳澤健編 (協同医書出版社) 「標準理学療法学専門分野理学療法評価学」奈良勲監修 (医学書院)

授 業 科 目 名	呼吸・循環・代謝系理学療法評価学	単 位 認 定 者	富 田 和 秀
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習、実技実習 8 コマ
科 目 の 目 的	本講座では、呼吸器系・循環器系・代謝系疾患に対して行う理学療法評価の基礎知識ならびに基本手技を習得することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 各理学療法評価の意義・目的・評価過程・判断基準を挙げることができる。 各理学療法評価の基本手技を適正に実践できる。
関 連 科 目	専門基礎科目群：生理学、運動生理学 専門科目群：呼吸・循環・代謝系理学療法学、呼吸・循環・代謝系理学療法学実習
成 績 評 価 方 法	定期試験に加え、実技テスト・小テスト・課題レポート・授業参加度などを加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
	オリエンテーション	今後の講義予定	
1	呼吸器系疾患の理学療法評価	呼吸器系疾患の理学所見の取り方 胸郭運動測定	II. 理学療法評価学 2. 基本的評価法
2	〃	呼吸機能検査	A. 評価の過程と方法 1. 呼吸・循環・代謝機能検査
3	〃	呼吸筋力検査	
4	循環器系疾患の理学療法評価	循環系疾患の理学所見の取り方	II. 理学療法評価学 3. 障害別評価法
5	〃	心電図	A. 障害領域の評価法 e. 内果領域
6	〃	運動負荷試験	
7	代謝系疾患の理学療法評価	呼吸代謝測定	
8	テスト	テスト	

教 科 書	「理学療法評価学 新版」松澤 正著（金原出版株式会社）
参 考 書	「呼吸運動療法の理論と技術」本間 生夫監修（メジカルビュー社） 「臨床検査学講座 生理機能検査学 第2版」大久保善朗・他 著（医歯薬出版） 「手にとるようにわかる 心電図入門」土居 義典監修（ベクトル・コア） 「最も早くマスターできる心電図独習テキスト」半田俊之助・他 監修（総合医学社）

授 業 科 目 名	運 動 器 系 理 学 療 法 学	単 位 認 定 者	江 口 勝 彦
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義を中心とする。
科 目 の 目 的	<p>歴史的に理学療法の成り立ちを見ると、大きくは現在と同様「運動」と「痛み」に対する治療ということが出来るが、その中でも早期から運動器系疾患、外傷、痛みの治療法の一つとして発展してきている。1990年から2000年の理学療法白書によれば、理学療法対象疾患の頻度として多い順に、①脳血管障害、②骨折、③変形性関節症、④筋骨格系の障害…と運動器系疾患の頻度は非常に高い。</p> <p>一方、運動器系疾患に含まれるものは主に整形外科疾患であるが、外傷のみならず骨系統疾患や自己免疫疾患、腫瘍など多岐にわたることから、特殊な診断技術、検査法などを含む広くまた深い臨床医学の知識も求められる。</p> <p>これら運動器系疾患に対する理学療法ストラテジーには、運動療法、物理療法、義肢・装具療法、そして徒手理学療法とほぼすべての理学療法ストラテジーを併せて用いることが多い。</p> <p>本講義では、演習科目である「運動器系理学療法学実習」とともに、運動器系疾患に対する「評価→目標設定→治療計画→実施→効果判定」という系統的な理学療法を実践できるよう、これまでに習得した知識の統合を図る。</p>
学 習 到 達 目 標	運動器系疾患に対する理学療法の基本的考え方、保存療法としての理学療法の進め方、術後療法としての進め方、各運動器の障害に関する基礎知識を習得する。各論では、脊髄損傷、切断についてその評価法、理学療法について習得する。最低ラインを国家試験出題程度とする。
関 連 科 目	解剖学、生理学、運動学、運動生理学、整形外科学、理学療法評価学、運動器系理学療法評価学、物理療法学、義肢装具学、徒手系理学療法学、高齢者理学療法学・スポーツ障害・障害理学療法学健康増進・スポーツコンディショニング論、他
成 績 評 価 方 法	出欠席および態度・レポート課題・筆記試験などを総合して判断する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	コースオリエンテーション	本講義の目的、学習到達度、成績評価方法 講義スケジュール 推薦参考書の紹介 学習方法などについて	1. 運動療法 III. 理学療法治療学 A. 理論と基本技術 a. 関節可動域の改善 b. 筋力・持久力の改善 i. 痛みの軽減・除去 l. モビライゼーション B. 障害領域の運動療法 a. 整形外科領域 f. 外科領域 g. 産科領域 h. スポーツ障害と外傷 2. 物理療法 3. 装具療法 4. 日常生活活動（ADL） 5. リスク管理
2	総論 1	運動器系理学療法の捉え方 加齢の問題	
3	総論 2	骨の障害	
4		軟部組織の障害 神経の障害	
5	総論 3	スポーツ外傷・障害	
6	総論 4	時期による理学療法の進め方	
7			
8	総論 5	徒手理学療法	
9	各論 1	脊髄損傷	
10			
11			
12	各論 2	切断	
13			
14			
15	単位認定試験		

教 科 書	「運動器系理学療法学（仮）」理学療法科学学会監修（アイペック）2006年4月刊行予定
参 考 書	別途指示

授 業 科 目 名	神 経 系 理 学 療 法 学	単 位 認 定 者	富 田 浩 ・ 柴 田 雅 祥
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	1. 脳梗塞、脳出血などの脳血管障害、パーキンソン病、脊髄小脳変性症などの神経変性疾患の症状とそれにもなう障害について理解する。 2. 脳血管障害、神経変性疾患に対する理学療法（運動療法の原理、治療体系、評価、問題点抽出後の目標設定、治療プログラム作成、理学療法実施方法）について理解する。 3. 各疾患におけるリスク管理の方法を知る。 4. 主に脳性麻痺児の発達を援助するために必要な正常姿勢運動発達を理解する。
学 習 到 達 目 標	1. 脳血管障害、神経変性疾患に生じる障害について説明できる。 2. 脳血管障害、神経変性疾患に対する理学療法における評価、治療プログラム作成、理学療法実施方法について説明できる。 3. 脳血管障害、神経変性疾患の理学療法を実施する上でのリスク管理について説明できる。 4. 身体の反射・反応、姿勢・運動の発達が説明できる。
関 連 科 目	運動学、臨床運動学、人間発達学、小児科学、神経系理学療法評価学、神経系理学療法実習、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ
成 績 評 価 方 法	筆記試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1	脳血管障害の理学療法 (1)	オリエンテーション、脳血管障害の発症機序、症状	Ⅱ-2. 障害別評価法 A. 障害領域の評価法 b. 神経内科領域 c. 脳外科領域 Ⅱ-3. 障害別評価法 A. 障害領域の評価法 b. 神経内科領域 c. 脳外科領域 Ⅲ-1. 運動療法 A. 理論と基本技術 d. 協調性の改善 e. バランスの獲得・改善 f. 姿勢保持の改善 g. 基本動作の獲得・改善 h. 歩行の獲得・改善 Ⅲ-1. 運動療法 B. 障害領域の運動療法 b. 神経内科領域 c. 脳外科領域 Ⅱ-2. 基本的評価法 A. 評価の過程と方法 j. 運動発達検査 Ⅱ-3. 障害別評価法 A. 障害領域の評価法 d. 小児領域 Ⅲ-1. 運動療法 A. 理論と基本技術 j. 運動発達の促進 Ⅲ-1. 運動療法 B. 障害領域の運動療法 d. 小児科領域
2	脳血管障害の理学療法 (2)	脳血管障害の機能障害とその回復過程、および評価	
3	脳血管障害の理学療法 (3)	脳卒中障害理学療法の実施方法 1	
4	脳血管障害の理学療法 (4)	脳卒中障害理学療法の実施方法 2	
5	脳血管障害の理学療法 (5)	脳卒中障害理学療法の実施方法 3	
6	神経変性疾患の理学療法 (1)	パーキンソン病の理学療法	
7	神経変性疾患の理学療法 (2)	脊髄小脳変性症の理学療法	
8	神経変性疾患の理学療法 (3)	筋炎、ギランバレー症候群の理学療法	
9	神経変性疾患の理学療法 (4)	筋萎縮性側索硬化症の理学療法	
10	神経変性疾患の理学療法 (5)	その他、神経変性疾患の理学療法	
11	小児理学療法 (1)	オリエンテーション・原始反射・姿勢反射	
12	小児理学療法 (2)	正常姿勢運動発達 1	
13	小児理学療法 (3)	正常姿勢運動発達 2	
14	小児理学療法 (4)	その他の発達	
15	試験	筆記試験	

教 科 書	「系統理学療法学 神経障害系理学療法学」丸山仁司 編 (医歯薬出版) 「PT マニュアル 小児の理学療法」河村光俊 (医歯薬出版)
参 考 書	「理学療法ハンドブック第1～3巻」細田多穂、他/編 (協同医書) 「小児の理学療法」田原弘幸 他/編 (神陵文庫)

授 業 科 目 名	物 理 療 法 学	単 位 認 定 者	松 澤 正
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	物理療法は運動療法とともに、理学療法の中で車の両輪をなすものであり、その治療法を理解することは、疾病治療を進める上で欠かせないものであり、物理療法の治療根拠について講義を中心に学習する。
科 目 の 目 的	物理療法の中で、温熱療法、水治療法、電気療法、光線療法、マッサージ、牽引療法等について、その定義、歴史、分類、原理、生理学的作用、適応、禁忌、実際について基本的事項を習得させることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	物理療法実習や臨床実習において物理療法の治療に当り、その治療根拠を理解し、各種疾患に対し、適切な治療ができるようにすることを目標とする。
関 連 科 目	生理学 運動学 内科学 整形外科学 基礎理学療法学
成 績 評 価 方 法	筆記試験と授業中の学習態度等を総合して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
1		物理療法の定義、位置付け、歴史	
2		物理療法の原理、分類	
3		温熱・寒冷療法Ⅰ（熱力学の基礎、温熱の生理学的作用）	温熱の物理学、温熱の生理学、温熱の効果、適応、禁忌
4		温熱・寒冷療法Ⅱ（寒冷の生理学的作用、表在熱療法）	ホットパック療法、パラフィン療法
5		温熱・寒冷療法Ⅲ（高周波療法の原理、生理学的作用、治療効果、適応、禁忌）	高周波の原理、生体作用、適応、禁忌
6		高周波療法の実際（超短波療法、極超短波療法、超音波療法）	超短波療法、極超短波療法、超音波療法
7		水治療法（水治療法の定義、生理学的作用、種類、実際）	水治療法の分類、水治療法の生理学、治療法
8		電気療法Ⅰ（電気療法の定義、分類、電気の基礎）	電気刺激の物理学
9		電気療法Ⅱ（電気生理学）	電気刺激の生理学
10		電気療法Ⅲ（低周波療法、経皮的電気刺激療法、干渉波療法、機能的電気刺激法）	経皮敵電気刺激療法、干渉波療法、機能的電気刺激法
11		光線療法Ⅰ（光線療法の定義、分類、生理学的作用、光線療法の実際）	光線の生理学 赤外線療法、紫外線療法、レーザー光線療法
12		マッサージⅠ（定義、生理学的作用、手技）	
13		マッサージⅢ（身体各部の手技）	
14		牽引療法（牽引療法の定義、生理学的作用、実際）	牽引の効果、種類
15		期末試験	

教 科 書	「標準理学療法シリーズ物理療法学」(医学書院)
参 考 書	

授業科目名	日常生活活動学	単位認定者	浅田春美
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	人間が日常生活を営んでいく上で行われる基本動作である起居・移動、食事、排泄、入浴、更衣、整容などを取り上げ、それらの動作の分析・評価方法、また、障害をもつ患者さんへの練習・指導方法などについて学習する。さらに日常生活活動各動作の自立度の改善向上に有効な手段である歩行補助具、車椅子などの使用法、適応などについて学ぶ。
学習到達目標	1. ADL・APDL・IADL・QOL の概念や範囲を説明できる。 2. 代表的な ADL 評価法の目的と活用法について説明できる。 3. 基本動作を含む ADL を運動学的にとらえ、模倣することができる。 4. 移動補助具の基本構造や適応が説明でき、使用することができる。
関連科目	日常生活活動学実習、生活環境学、生活環境学実習、地域理学療法学、地域理学療法学実習、各種疾患の理学療法学、義肢・装具学など
成績評価方法	定期試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準
			理学療法士
1	オリエンテーション ADL 総論	今後の講義予定 ADL の概念	III-4. 日常生活活動 (ADL) A. 概念と分類 a. 概念・ 範囲・意義 b. ADL、生活関連活動、QOL II-2 基本的評価法 A. 評価の過程と方法 m. ADL 評価 III-4. 日常生活活動 (ADL) B. 基本技術と適応 b. 起居移動動作 c. トランスファー IV-2. 生活環境整備 B. リハビリテーション関連機器 a. 福祉用具 b. コミュニケーション機器
2		ADL の概念と範囲	
3		ADL の評価：目的・基準・尺度	
4		ADL の評価：代表的な評価表	
5		セルフケアの構成要素：グループワーク (食事・排泄・更衣・入浴・整容)	
6		セルフケアの構成要素：グループワーク	
7		セルフケア報告会およびまとめ	
8		基本動作・移乗動作①	
9		基本動作・移乗動作②	
10		基本動作・移乗動作③	
11		移動・歩行動作	
12		移動補助具 (杖・歩行器) リハビリテーション支援機器	
13		移動補助具 (車椅子) ①	
14		移動補助具 (車椅子) ② シーティング	
15	テスト	テスト	

教科書	「日常生活活動 (ADL)」橋本 隆他編集(神陵文庫)、 「新版 姿勢と動作～ADL その基礎から応用～」斉藤 宏他著 (メヂカルフレンド社)
参考書	「日常生活活動(動作)」土屋弘吉他編集 (医歯薬出版) 「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学」鶴見 隆正編集 (医学書院) 「標準理学療法学 臨床動作分析」高橋 正明編集 (医学書院)

授 業 科 目 名	見 学 実 習	単 位 認 定 者	柴 田 雅 祥
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、学外演習 (1 週間)
科 目 の 目 的	病院等実習施設での見学実習を通じて、理学療法士として必要な基本的態度を身につけるとともに、学内で学んだ理学療法の基礎知識を基に、理学療法の業務全般、具体的には、理学療法の対象疾患、理学療法の流れ、理学療法評価、理学療法の治療法、リハビリテーションにおける位置づけ等を理解することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 理学療法士に必要とされる基本的態度を身につける。 2. 理学療法業務全般 (理学療法の対象疾患、理学療法の流れ、理学療法評価、理学療法の治療法) について理解する。 3. 病院等施設内における理学療法部門と他部門との関係を知り、リハビリテーションにおける位置づけを理解する。 4. 臨床場面の見学を通して、理学療法の具体的内容を知る。
関 連 科 目	評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ
成 績 評 価 方 法	出席状況・レポート・実習後報告会での内容

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
			理学療法士
	オリエンテーション	見学実習の実習目的、目標、実習内容等の説明	
	見学実習	病院等実習施設における見学実習	
	実習後報告会	見学実習で学んできたことについての報告会	

教 科 書	配布プリント
参 考 書	「標準理学療法学 臨床実習とケーススタディー」 鶴見隆正編 (医学書院) 「実習の達人 学生編」 理学療法科学学会編 (アイベック)

